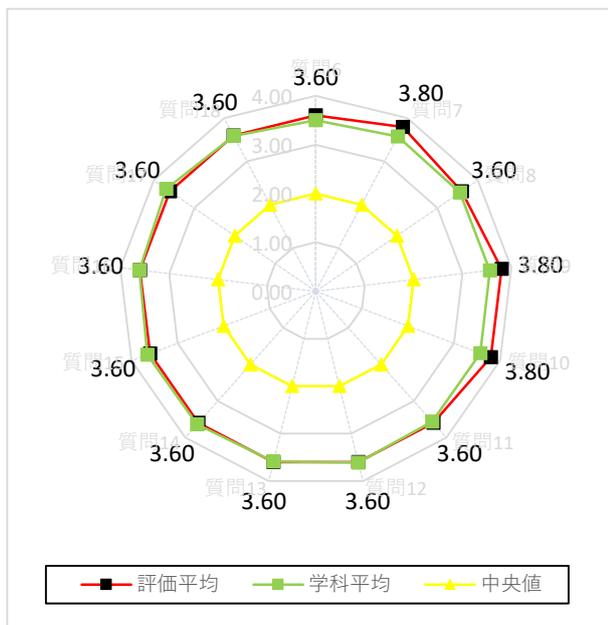
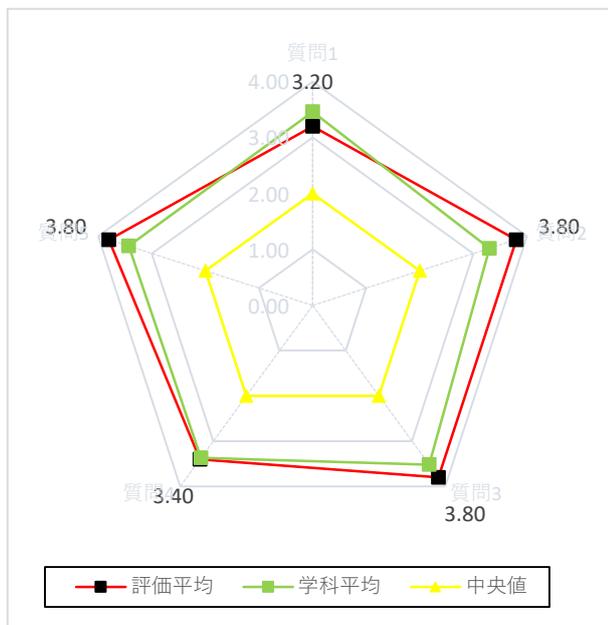


学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		あすなろう（初年次教育含）	8名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

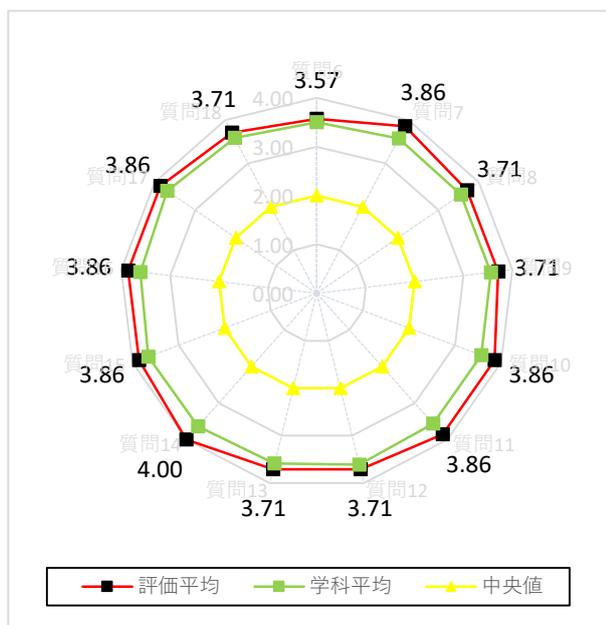
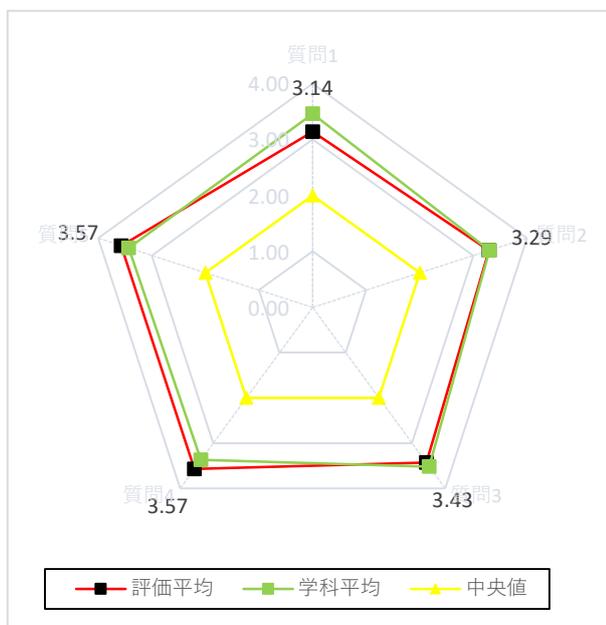
3年生になった時のソーシャルワーク実習で役立つような対人対応、実習先へのお礼状の書き方を念頭に置いて授業展開した。

### (3) 次年度に向けての取り組み

学生の希望やニーズを踏まえての実施が有効と考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		あすなろう（初年次教育含）	8名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

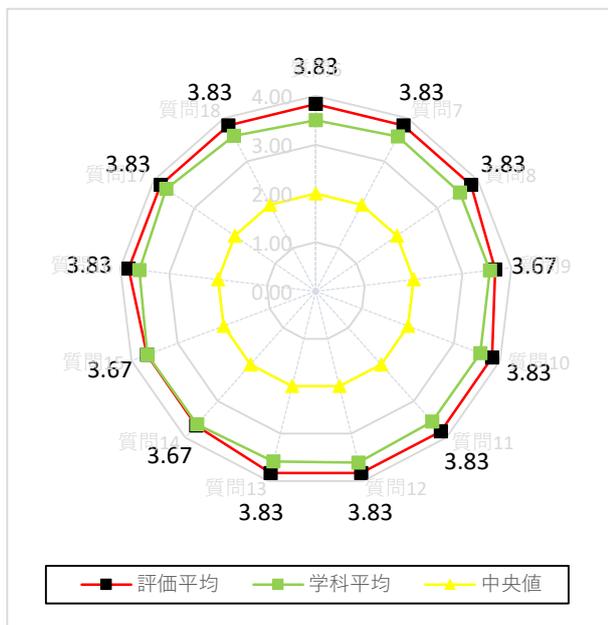
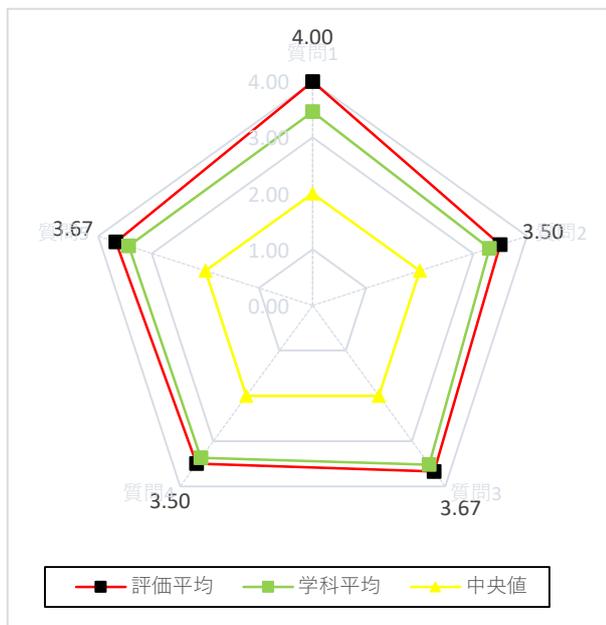
この授業は、学科全体とゼミ別の活動内容で構成されていて、学生生活を送る上で大切な事や社会人基礎力そしてボランティア活動等の内容である。必修科目でもあることから、授業出席も良好であった。学生自身の総合評価は、3.57であった。ゼミ別の活動等においては、できるだけわかりやすく説明し個別の質問等にも親身に対応してきた。その結果もあり、質問6以降の評価も3.5以上で特に質問14の学生対応には4.0の高い評価であった。質問18の総合評価は3.71で全体的に良好な評価を得たものとする。

### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度前期は全学的取り組みでクラス編成もされることから、今年度と少し対応が異なる。しかし、学科およびゼミ別の活動も通年で組み込む計画のため、これまでと同様に学生の意見も取り入れて誠実に取り組みたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		あすなろう（初年次教育 含）	10名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

すべての項目で学科の平均を上回っており、授業内容や授業方法については学生の満足度は高いと判断できる。

ただし、評価が低いわけではないが質問15の公平性に関しては、近年個別の支援を要する学生や境界領域の学生がみられ、その対応の難しさを感じている。

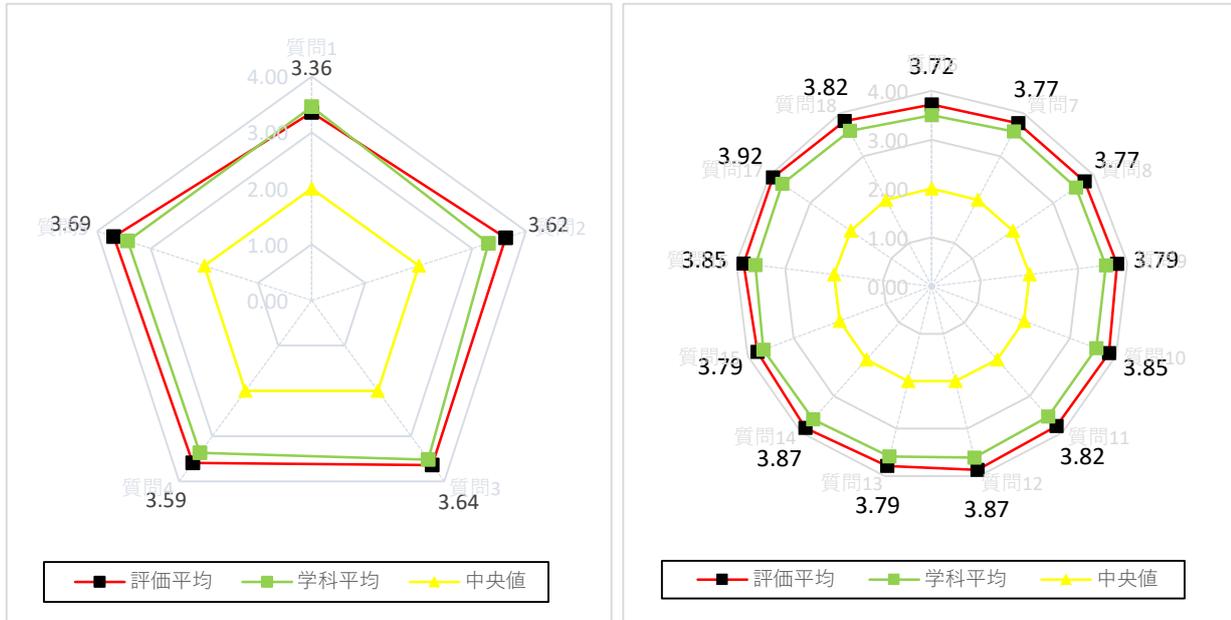
明らかな障害について診断や本人の自覚がある場合は特性を考えながら対応することができるが、そうでない場合の対応が難しい場合がある。

### (3) 次年度に向けての取り組み

今年度同様に、学生の特性を含めて個々の理解を勧めながら、充実した大学生活を送れるように指導をしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		データサイエンス演習	49名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

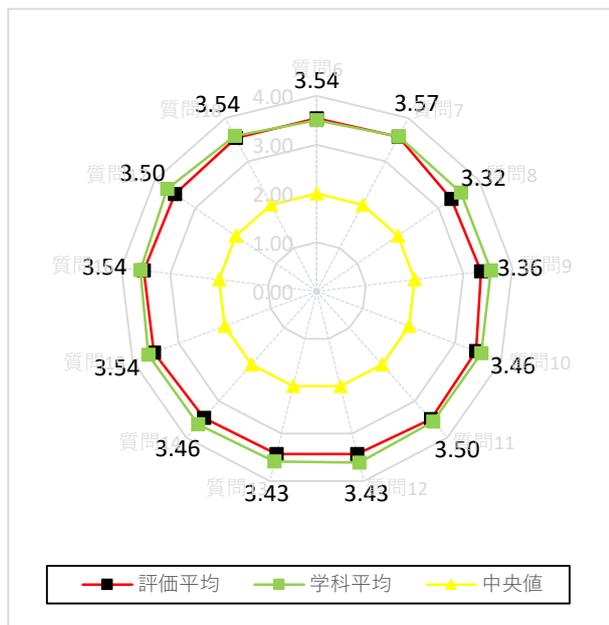
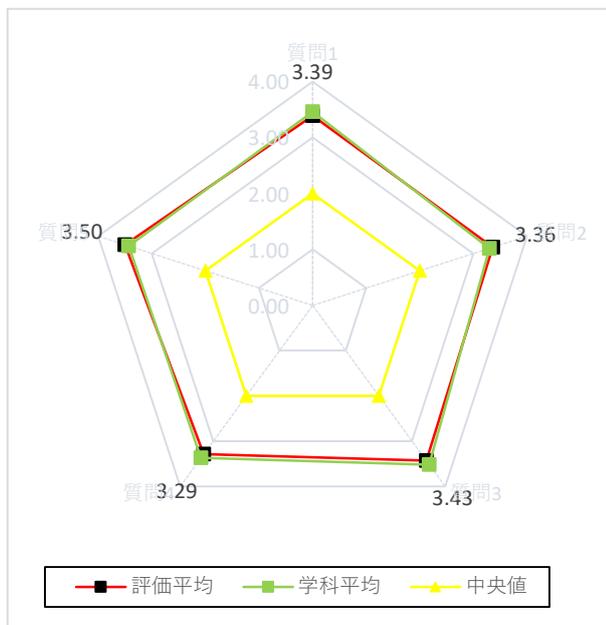
この授業は、学科教員がWordの文書作成やExcelソフトを使用しての表作成等の授業内容と教育支援企業のテキスト「スポーツ探究数学入門」を使用しての講義を分担して行う授業である。そのため学科での取り組みに対しての授業評価となる。学生自身の授業出席については、必修科目であることから欠席が少なかったようである。質問5の自己総合評価も3.71と良好な評価であった。また、授業内容や教員の対応等に関する評価も高く、質問18の総合評価も3.86と高かったことから、全体的に良好な授業評価を得たものと考えられる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度も同様な授業内容で展開することから、今年度よりもさらに高い評価が得られるよう学生に分かりやすい授業で取り組めるよう各教員で工夫した授業を考えたい。また、教員内での授業状況の情報共有をしながら、学生への個別対応を今後も活かしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		データサイエンス演習	33名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

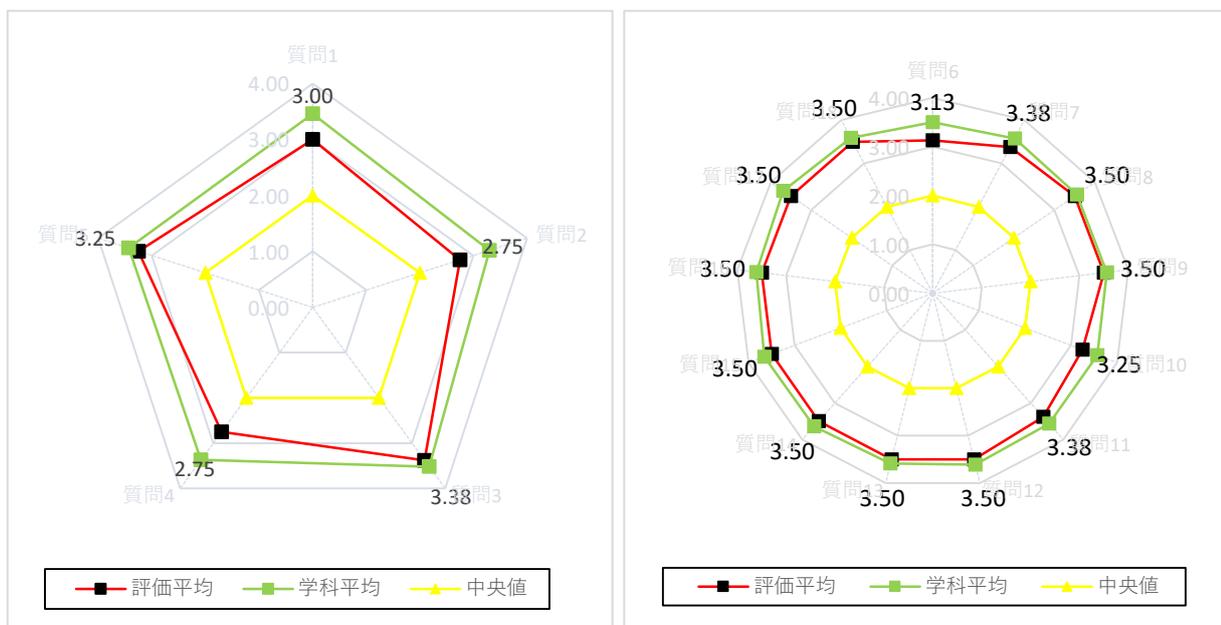
主教員の授業計画のもと、ゼミ担当教員がゼミ生をフォローする形式での授業内容であった。授業後半は、学生によるパワーポイント作成課題が短いサイクルで続いたため、学生にとっての負担感が大きかった。また、学生によっては、高校で既に学んだ内容であり、物足りないとの声もあった。

### (3) 次年度に向けての取り組み

学生が学びたいことを把握し、授業内容に一部分でも取り入れた方が効果が上がるのではないかとと思われる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		発展ゼミナール I	10名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

質問2「シラバス活用」、4「授業理解のための工夫」が目立って低い。受身的な授業展開になってことが課題として浮彫りになっている。

質問6の「シラバス（授業計画）についての説明」項目の評価が低い。シラバス・評価内容は資料として配布し説明を行っていたが、なぜ低いのが不明。

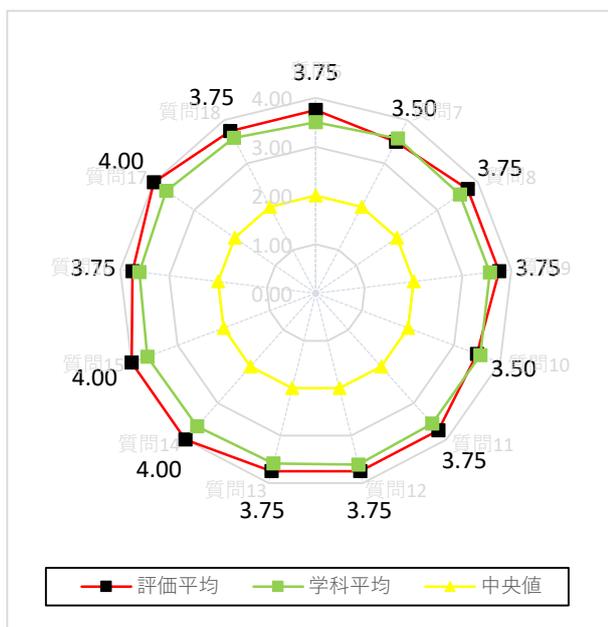
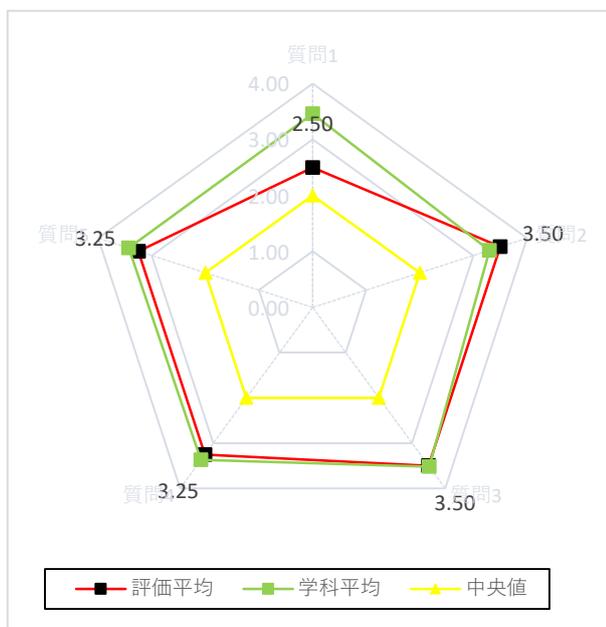
### (3) 次年度に向けての取り組み

学生が主体的にスタディ・スキルを磨くための、教材の工夫を行う。

シラバスについては、毎回の講義冒頭に「計画」を説明することにより、学生がインプットし活用できるよう指導する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		発展ゼミナール I	8名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

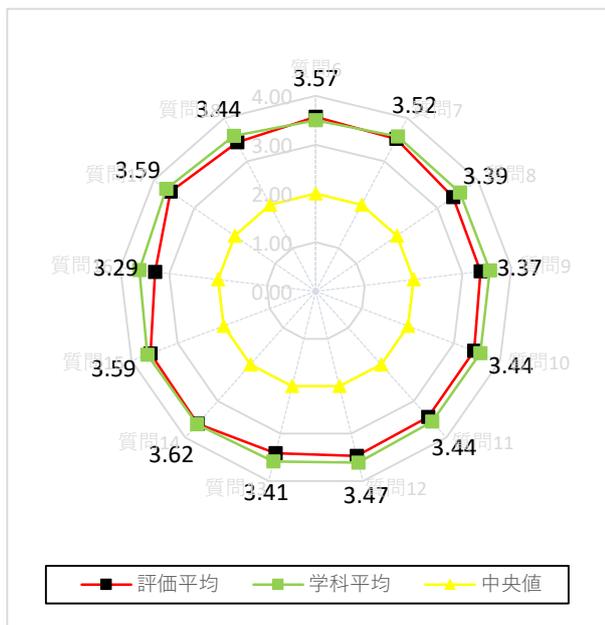
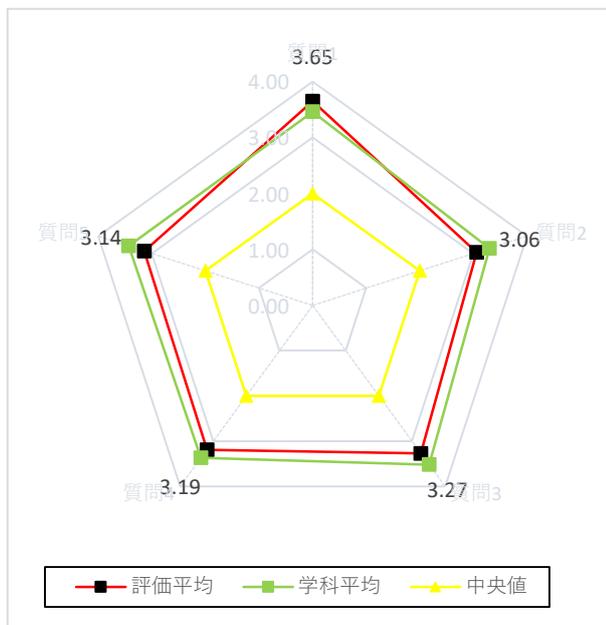
障害のある学生も障害のない学生も共に学ぶなかで、何らかの気づきや成長につながるゼミにしたいとの思いで授業を展開した。  
また、3年次以降の卒論作成に役立つよう、文章のまとめ方や要約の仕方を説明した。

### (3) 次年度に向けての取り組み

学生の進路や卒論作成に役立つようなゼミになっていくことを祈っています。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部 子ども学部	社会福祉 スポーツ健康福祉 心理カウンセリング		人体の構造と機能及び疾病 I	90名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

試験の「授業感想」では、復習のための課題プリントを提示することが、学習に有効であったとの記載が複数みられた。

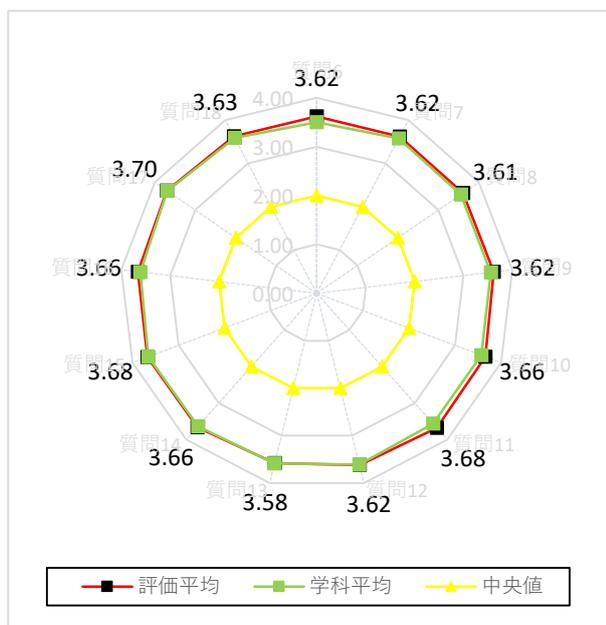
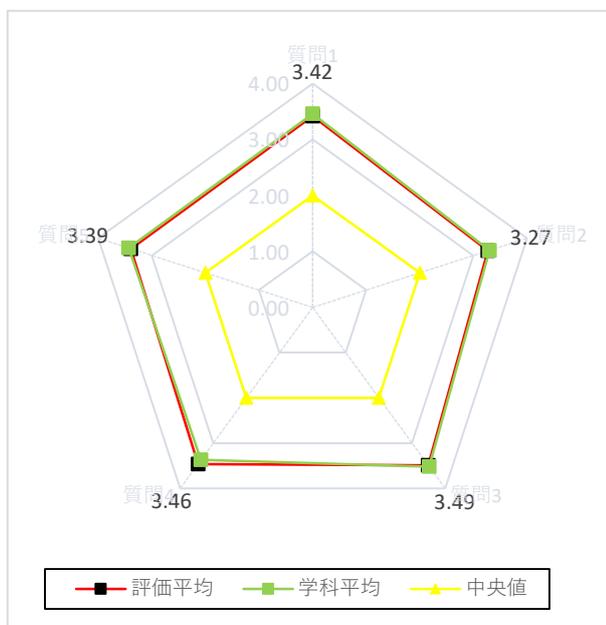
オンライン授業にて、学習の習熟度や学びの姿勢などが教員に見えづらいため、理解が深まる方法として「プリント」を用いたことが全体のバランスの良い評価につながったと考える。

### (3) 次年度に向けての取り組み

学びが深まる教材「プリント」「スライド」の工夫をさらに続ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部 子ども学部	社会福祉 スポーツ健康福祉 心理カウンセリング		人体の構造と機能及び疾病Ⅱ	99名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

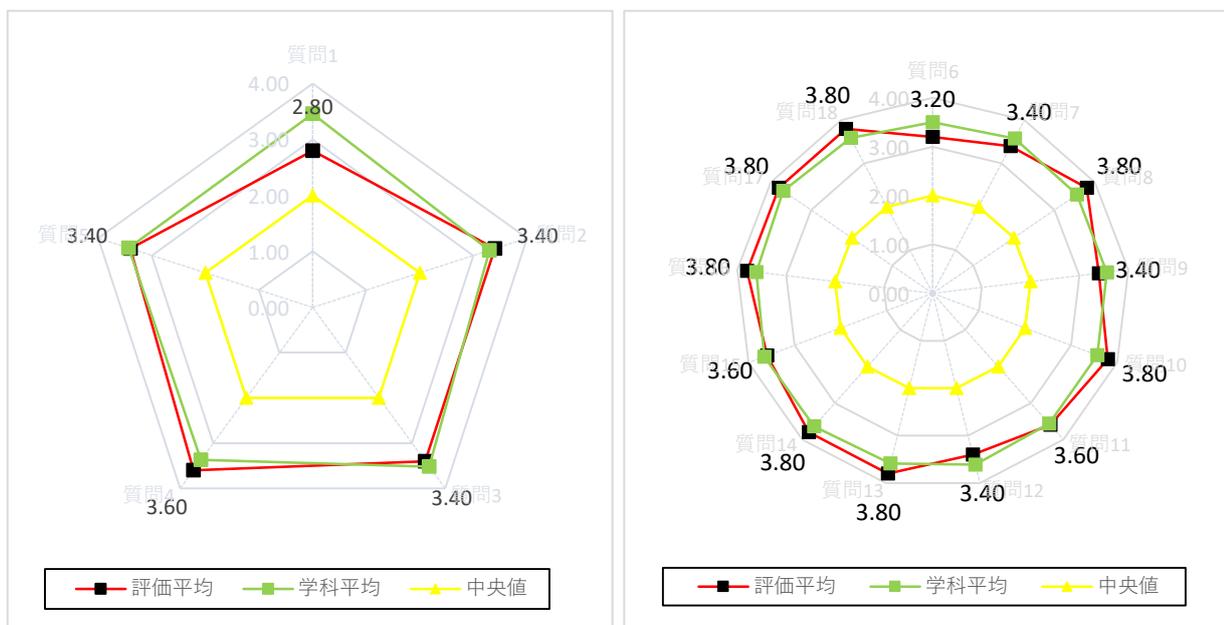
人体の構造と機能及び疾病Ⅰに続き、ほとんど同じ学生が受講する科目である。期末の試験では高得点の学生も多く、評価と照らし合わせ考えると、授業での「前回の復習」「課題プリント」などが効果的であったと考える。

### (3) 次年度に向けての取り組み

バランスのよい評価であったが、オンライン授業であるため、専門的な用語や疾患などの理解を深めるためにはさらなるスライドの見やすさ、話しのテンポ、ポイント押さえを念入りに行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ健康福祉学演習Ⅱ (含卒業研究)	7名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

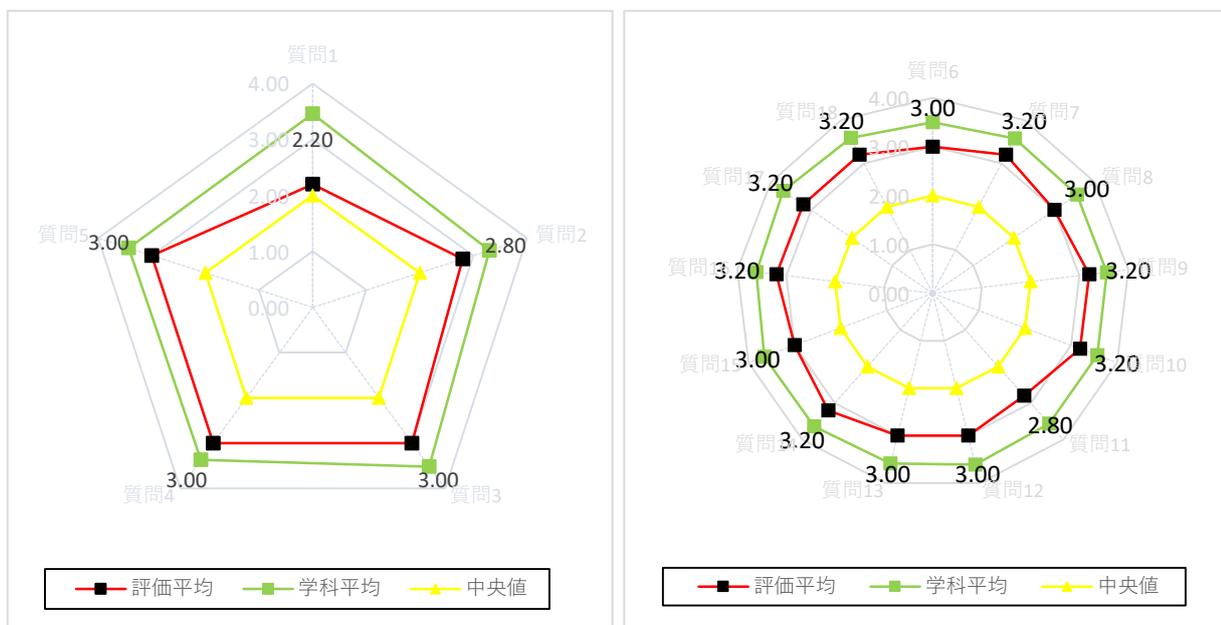
これまで大学授業で学んできた3年間の集大成ともなる卒論作成の授業である。学生自身の授業出席は数回の欠席状況となっているが、事前に調整した日程に無断欠席する者も多かった。それ以外の質問（質問2～5）の評価平均は、3.4以上とまあまあ良好な評価であった。質問6～18についてもほぼ同様な結果であったものの、詳細をみると2のあまりそう思わないとの回答もいくつかの質問にある。質問18の総合評価は3.8と良好であった。

### (3) 次年度に向けての取り組み

個別指導の授業となるため、自主性を尊重し学生の意見も取り入れながら4年間の集大成となる卒業研究の指導に取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ健康福祉学演習 I	6名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

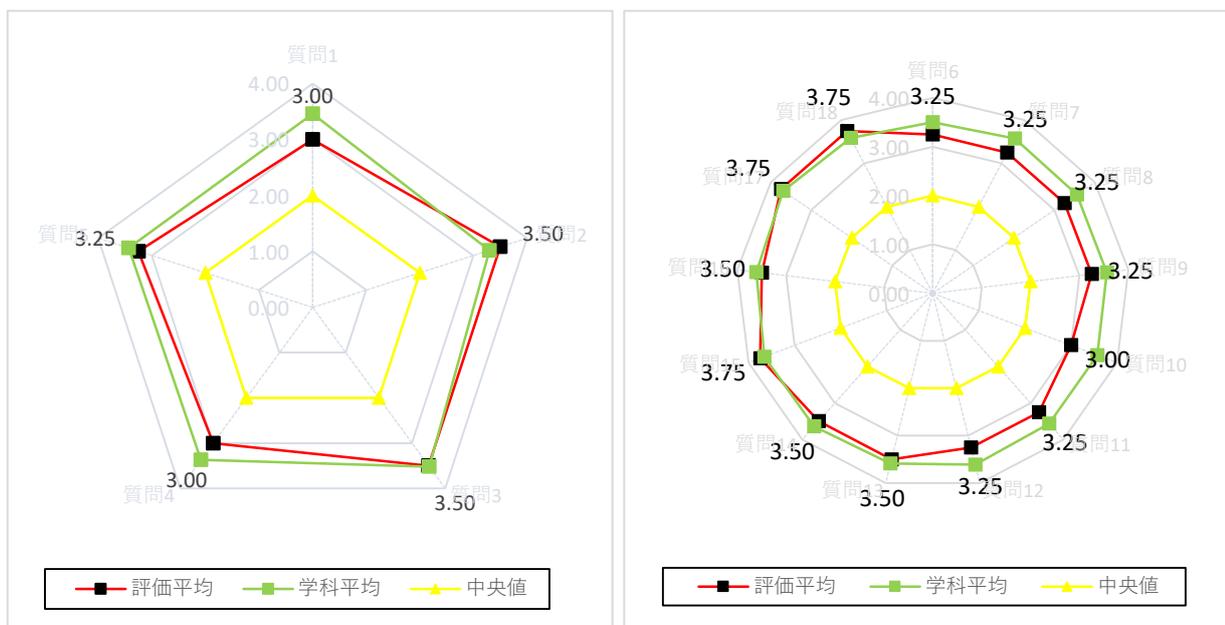
授業の出席状況があまり良くなく、学生自身も認識して評価も低い値であった。質問1から質問5までの自己評価では、良いの4評価者がなく、やや良いの3評価者が多かった。質問5の個人の総合評価は、3.0であった。質問6から質問18の評価では質問11以外で3.0以上であったものの、質問内容によっては2のあまりそう思わないの意見もあり、決して良好な状況ではないと感じている。授業の総合評価は、3.2であった。

### (3) 次年度に向けての取り組み

4年生の「スポーツ健康福祉学演習Ⅱ（含卒業研究）」に繋げる科目であり、学生とのコミュニケーションを取りたい。次年度も授業改善に取り組み、学生が納得いく授業に近づけるよう努力したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		発展ゼミナールⅢ（含卒業研究）	10名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

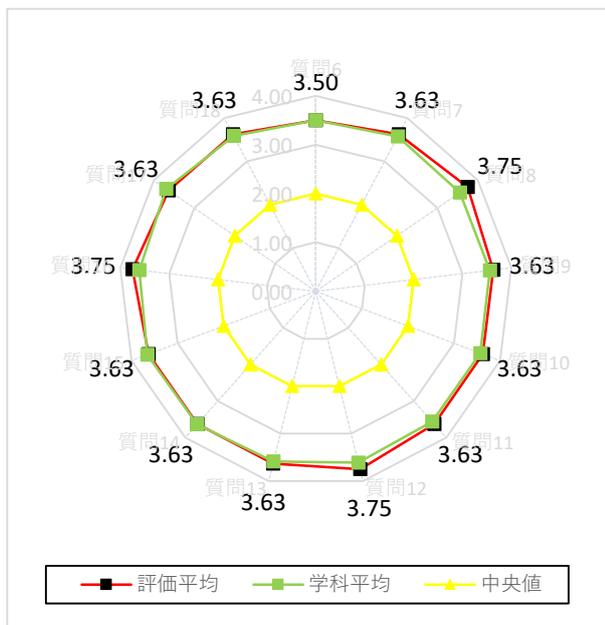
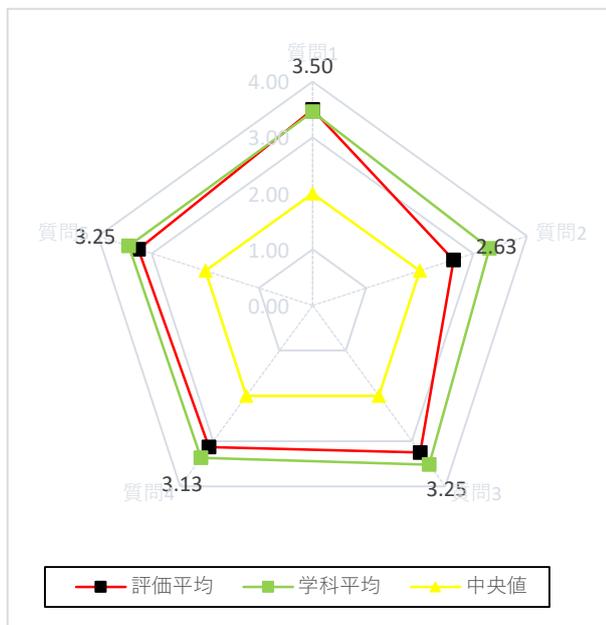
4名の回答。授業中の回答であったが、回答率を上げる必要がある。質問6から13にかけてが平均よりも低いのは4名中1名が2を付けている点で、前期・後期初回及びスケジュール等については、紙ベースで渡していたが、理解してもらう工夫が更に必要であったと考える。卒業論文の進行については、迷走したため、個別での指導が多くなったが、総合評価について4名は平均的であったと捉えると、今後も更に学生にわかりやすい進行をしていきたい。

### (3) 次年度に向けての取り組み

回答率を上げ、学生からの意見を今後反映できるようにしたい。卒論指導においては、スケジュールをゼミで用意しているが、個別の指導が必要となる。個人個人に併せて、進めていく必要を感じた。今後その点を工夫していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ健康福祉学演習 I	8名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

本科目は専門教育科目/学科専門科目/ゼミナール(必修科目)として、3年次に通年で開講しており、私が担当するゼミ生8名が履修した。

履修学生8名のうち8名全員から回答があり、ほぼすべての質問項目において概ね学科平均と同様の結果となった。

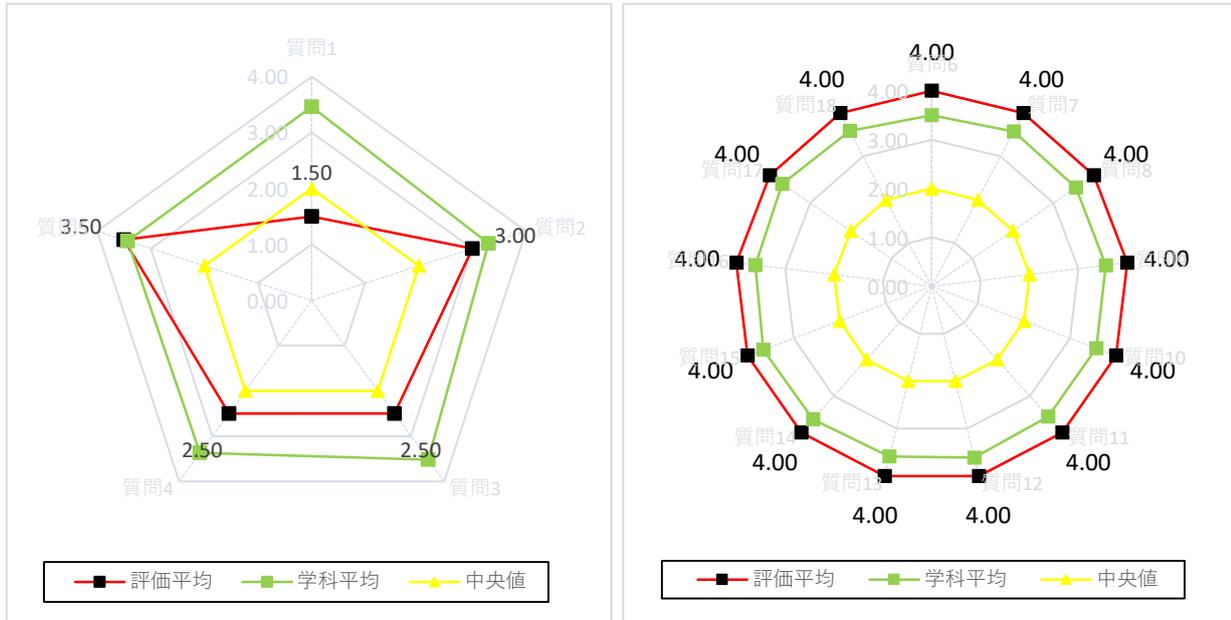
授業内容・方法に関する質問項目8「興味・関心が持てる工夫」および教員の対応に関する質問項目16「双方向的なやり取り」は一定の評価を得たことから、コミュニケーションを取りながら学修を進めることができていたと考えられる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

基本的には本年度と同様の取り組みを実施する予定であり、今後も学生の意欲を引き出す働きかけを行っていきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		発展ゼミナールⅡ	7名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

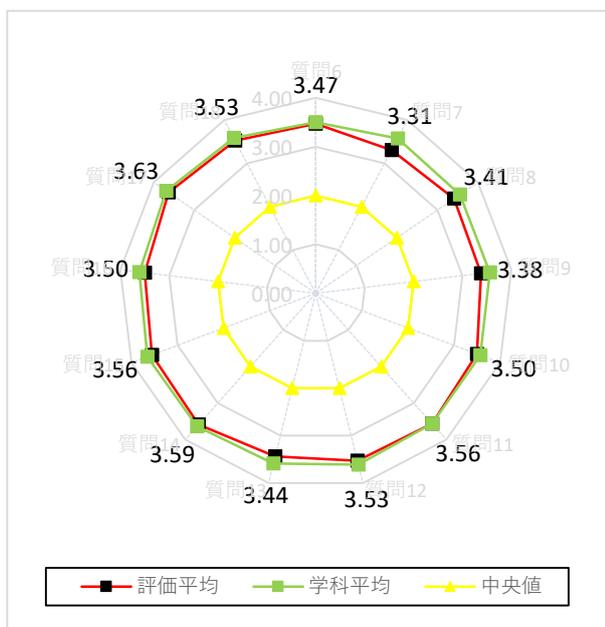
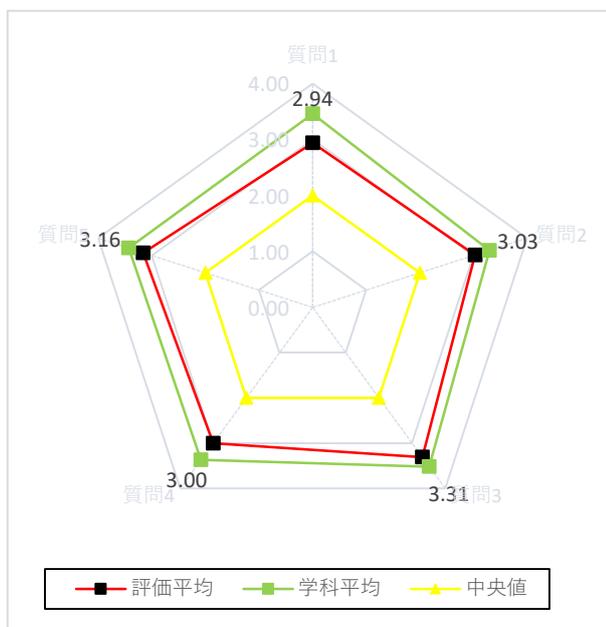
2名の回答。授業中に行ったが、回収率を上げることを心がけたい。2名の方の質問1から5については、公欠が多かったための結果と考えている。

### (3) 次年度に向けての取り組み

回収率を上げ、学生がどのように評価し、求めている内容を取り入れていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		介護論	61名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

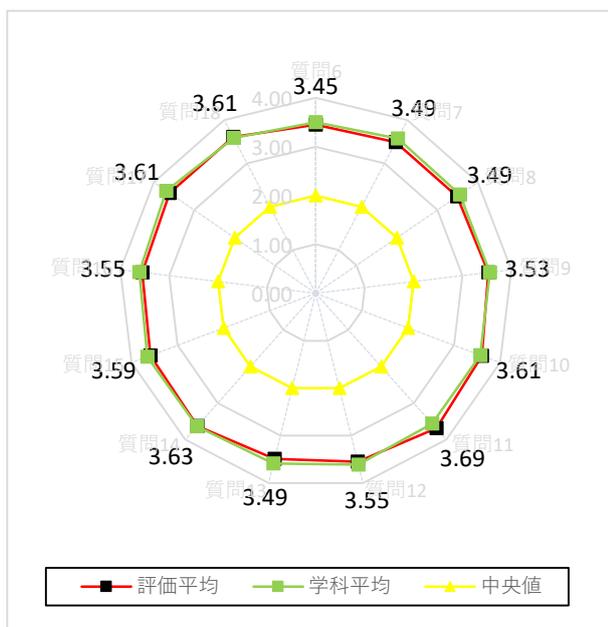
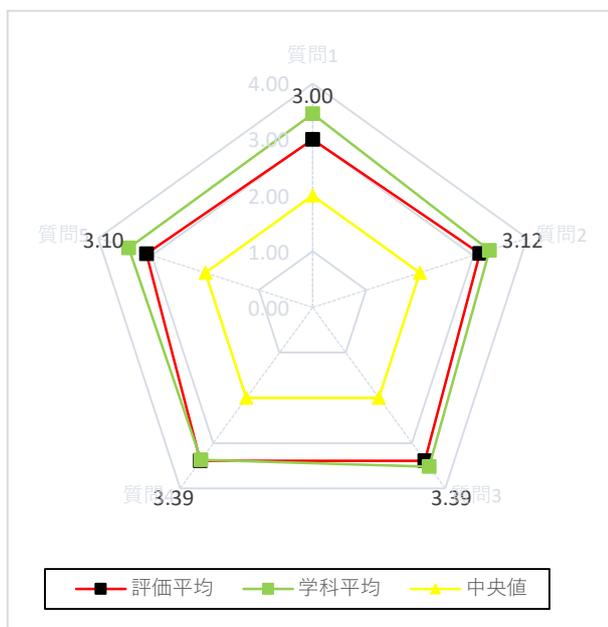
32名の回答。授業中の回答を促したが、全員からの回答ではなかった。質問7については、毎回シラバスと進行状況を伝えていたが、目標を最初に明確にすべきだったと考える。わかりやすい工夫をするために、YouTube等の動画を利用したが、学生の興味関心を引くまでなかったかもしれない。今後さらに工夫をして、わかりやすいようにしていきたい。評価が平均であるが、もう少し工夫や敵機切な内容とすることが求められているのだと考える。

### (3) 次年度に向けての取り組み

法制度等の覚えることが多い内容なので、その背景や役割等について、わかりやすいように伝えるのに工夫が必要だと考えている。毎回の目標の設置、わかりやすさを資料等に加え、工夫していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		障害者福祉論	87名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

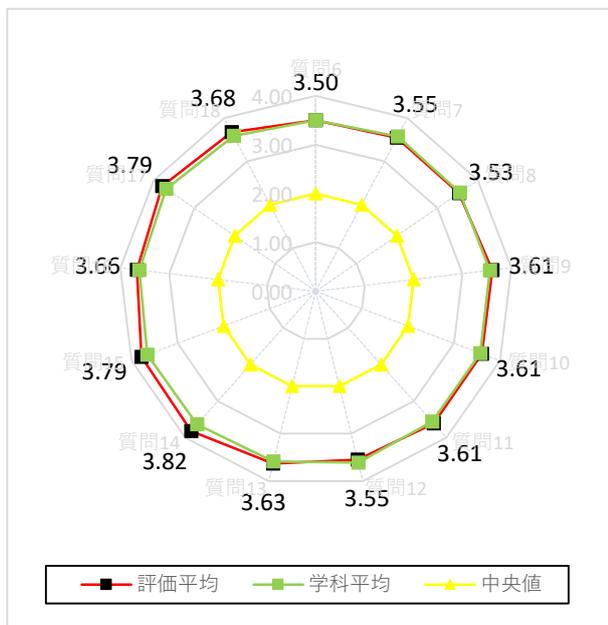
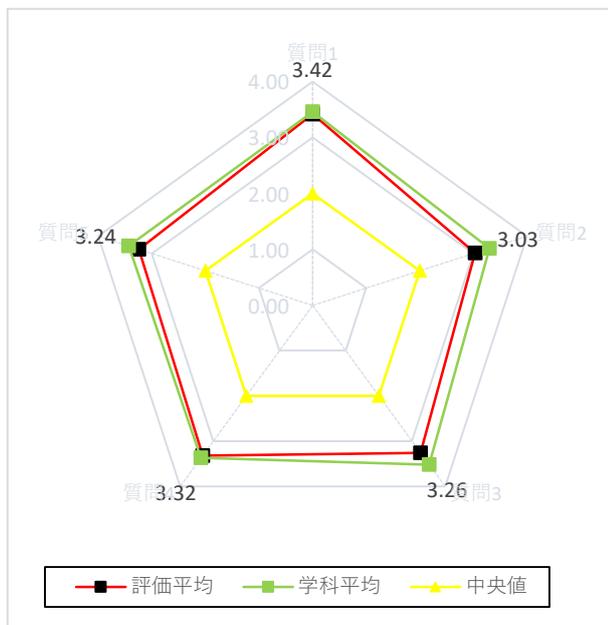
障害について、ユニバーサルな社会の実現に向けて、ささやかでも自分にできることは何かを考えるきっかけとなるものを提供したいと授業を展開した。

### (3) 次年度に向けての取り組み

各障害特性に応じた接し方に関する内容が参考になったとのアンケート結果もあったので、次年度以降も取り入れていただけることを希望しています。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		ソーシャルワークの基盤と専門職 I	40名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

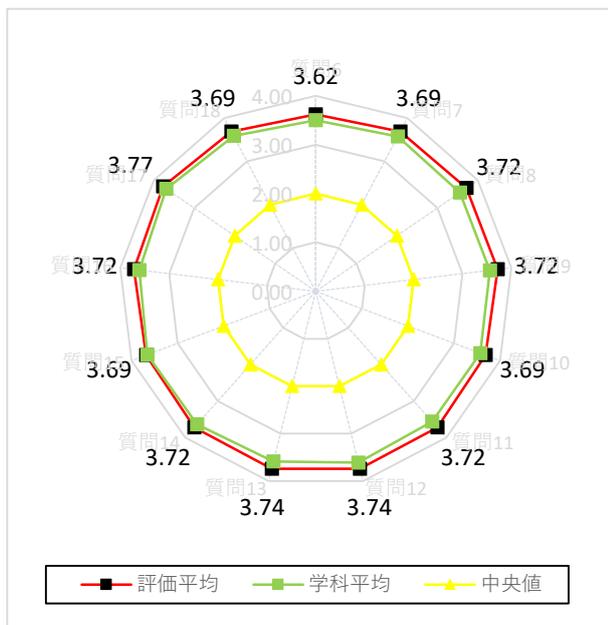
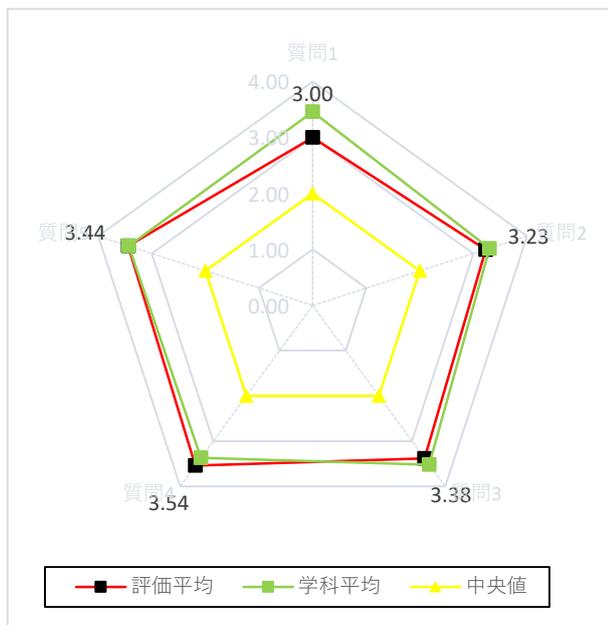
社会福祉士や精神保健福祉士が活躍するソーシャルワークとは何なのか？、をイメージしやすく、理解しやすく授業することを心がけた。

### (3) 次年度に向けての取り組み

ソーシャルワークについての興味や理解が深まるような内容が望まれると思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		ソーシャルワークの基盤 と専門職Ⅱ	48名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

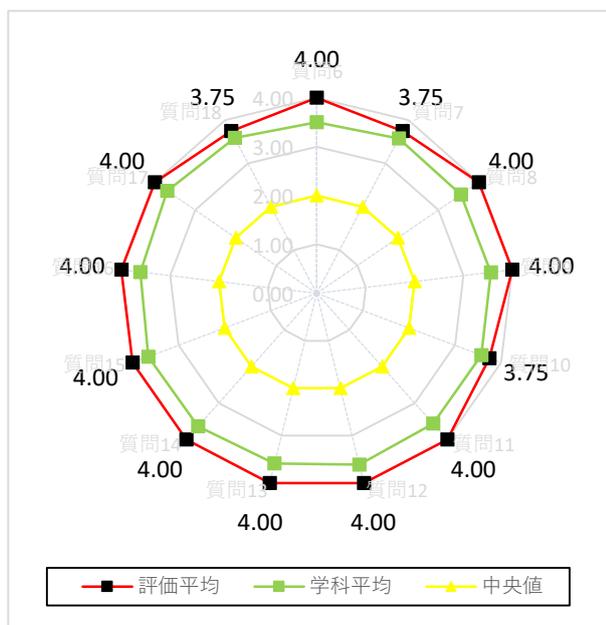
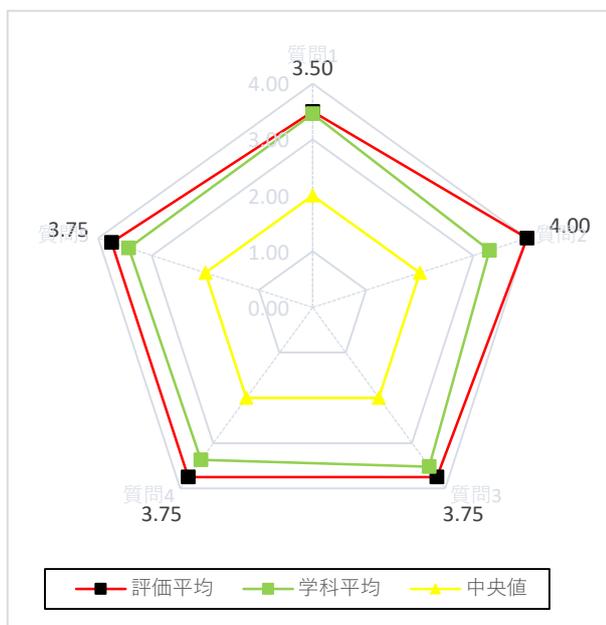
ソーシャルワークの対象となる人々の日常とそこに関わる専門職としてのソーシャルワーカーについて、具体的理解につながるよう動画や実務経験を交えながら授業を展開した。また、ささやかでも自分にできることは何かを考えるきっかけとなるものを提供したいと授業を行った。

### (3) 次年度に向けての取り組み

2年次以降の専門科目を受講する動機付け向上につながるような科目になればと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		ソーシャルワーク演習Ⅱ	10名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

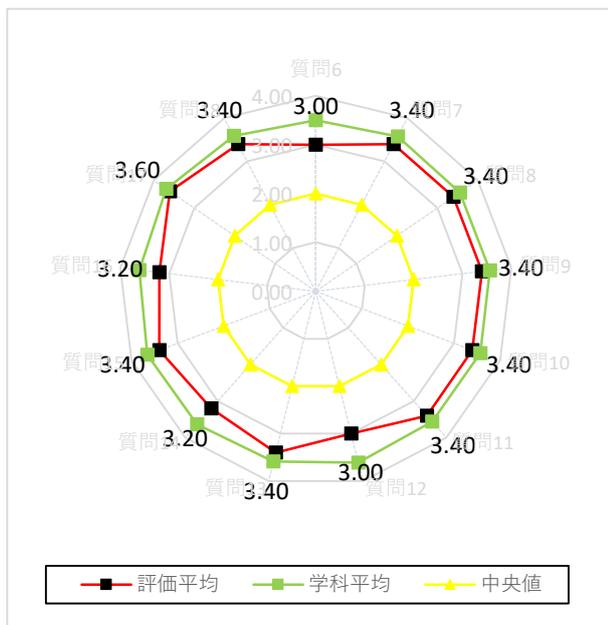
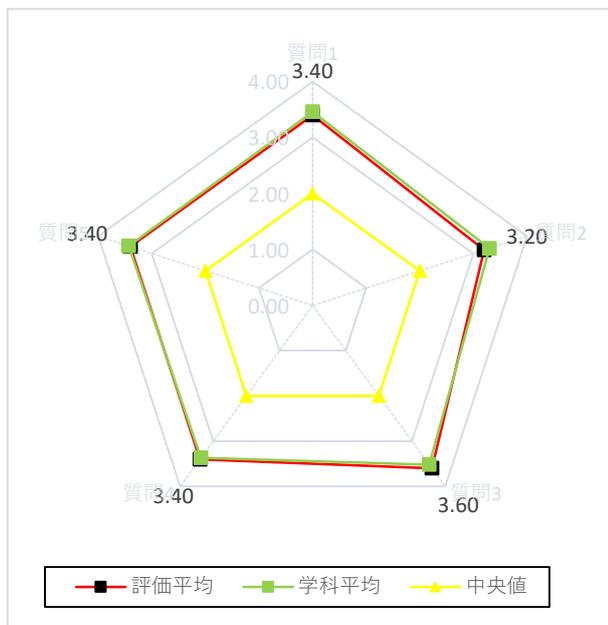
授業に協力的な学生が多く、学生に助けられ、育てていただいた。

### (3) 次年度に向けての取り組み

学生同士の意見交換が活発になるような仕掛けづくりを、担当する教員間で引き続き共有できると良いと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		ソーシャルワーク演習Ⅲ	15名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

3名の教員で分担して行う授業だったが、出席率の高い学生と低い学生が混在していたことから、特定の学生に負担がかかることもあったと考える。

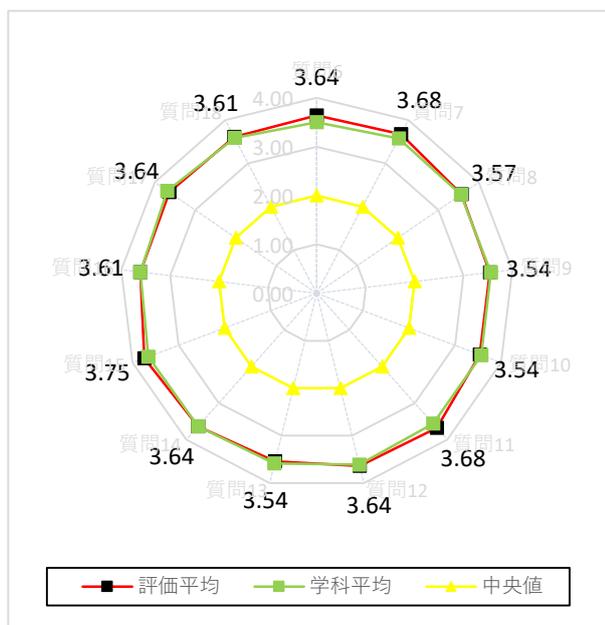
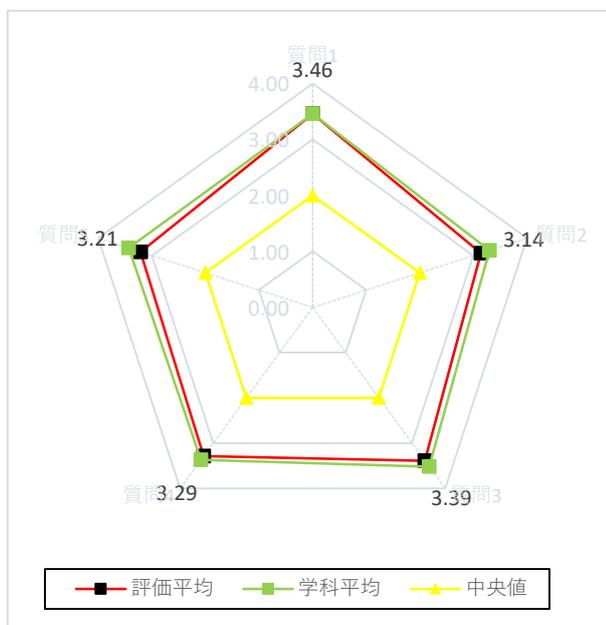
また、本科目の意見交換主体の演習という授業辞退に興味・関心の薄さを感じられる学生がいたり、送迎バスの時刻に合わせて授業を早めに終わらせてほしいとの学生もいたりして、主教員の作成した授業計画にどう工夫を加えて展開していくか難しさを感じた。

### (3) 次年度に向けての取り組み

学生同士の意見交換が活発になるような仕掛けづくりを、担当する教員間で引き続き共有できると良いと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		更生保護制度	57名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

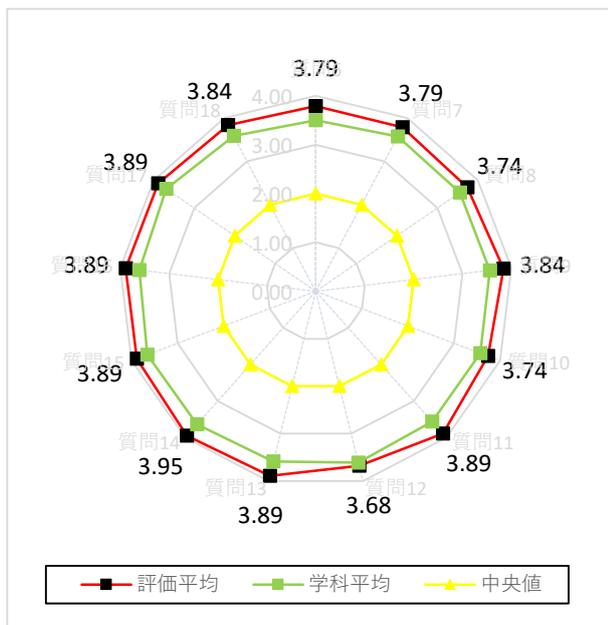
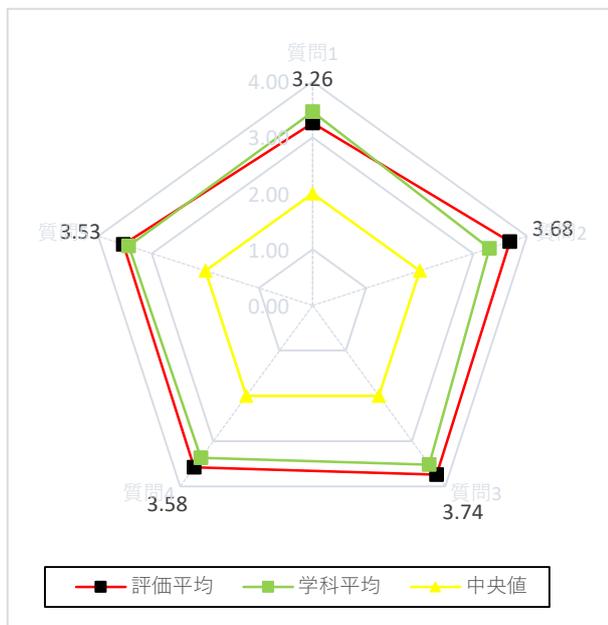
28名の回答。授業中にお願いしたが、もう少し回答率を上げれるようにしたい。ほぼ平均的な回答である。社会福祉領域で司法の用語等が難しいため、法務局のYouTube等を利用したが、8階の授業内容で進めるため、かなり急いだものになった。本当に内容を理解しているか、不安である。質問6～18までがもう少し工夫し、適切な授業が行えるように心がけていきたい。

### (3) 次年度に向けての取り組み

質問8から18までについて、配布資料や授業教材の内容を精査し、質問時間を設ける等を行い双方向的なやりとりをしながら、今後更に気を付けて授業を行っていききたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		ソーシャルワーク実習指導 I	39名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

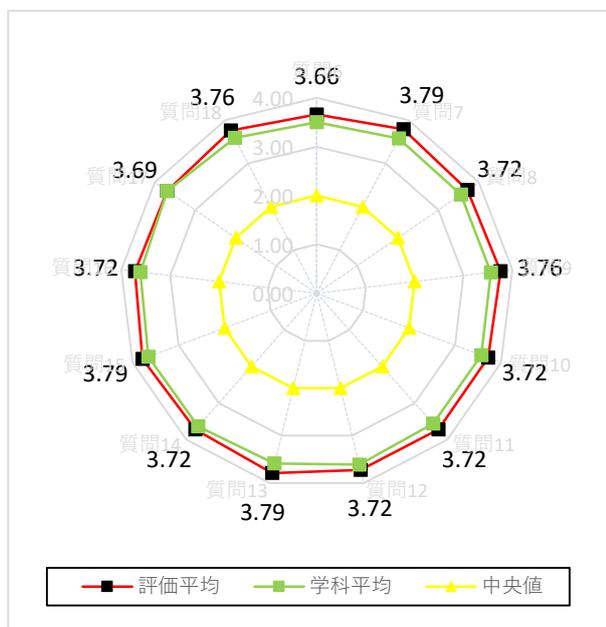
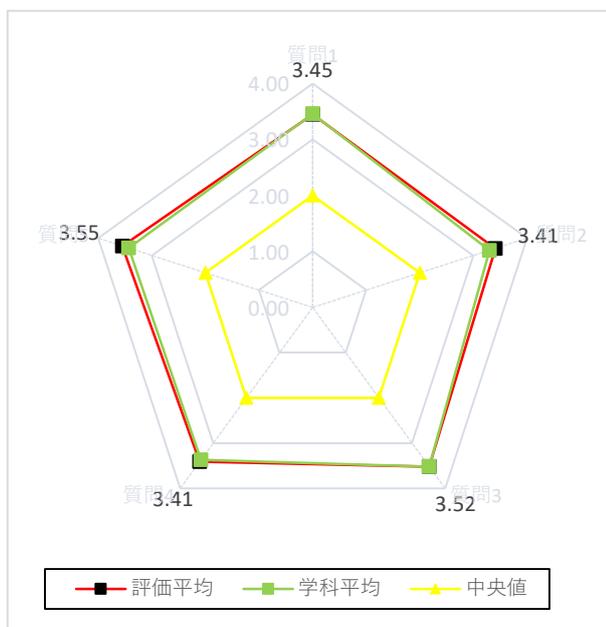
主教員のもと、3年次のソーシャルワーク実習に向けて、実務者による講義や施設見学などを充実させた。

### (3) 次年度に向けての取り組み

ソーシャルワーク実習に向けて、実務者による講義と座学を組み合わせた授業を展開していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		ユニバーサルデザイン概論	75名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

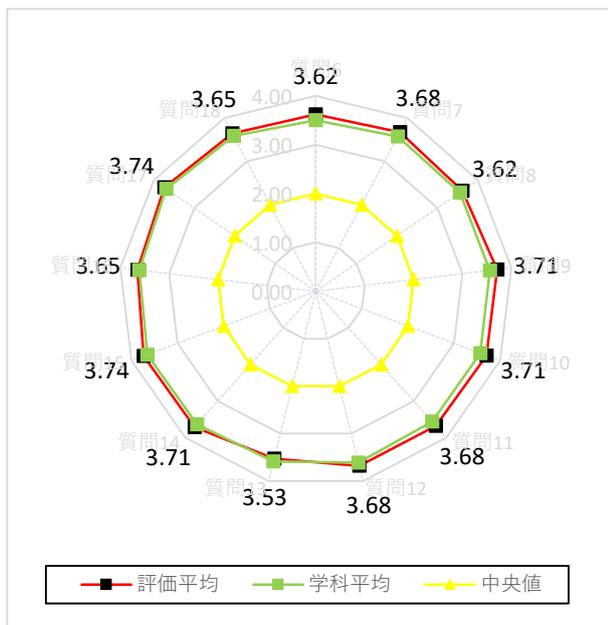
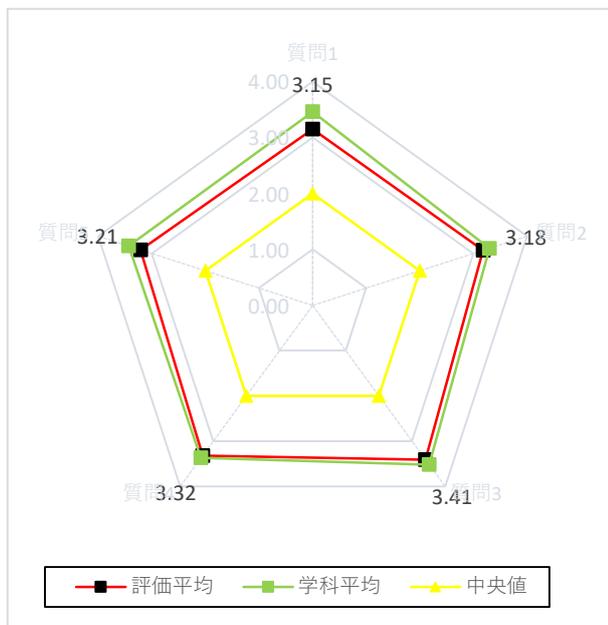
全体的な評価としては、学科平均より、上回った。授業の後半に関しては、入院中でもありTEAMSでの遠隔授業が中心になったが、休講とならずに授業を遂行できた。

### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度については、主に対面での授業とする。GOOGLE FORMにより、授業中での課題提出は、リアルタイムに集計が可能なので、引き続き活用するようにしたい。体育館を利用した実習や、福祉用具の体験が可能なような授業を実施したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		ソーシャルワークの理論 と方法Ⅲ 相談援助の理論と方法Ⅲ	48名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

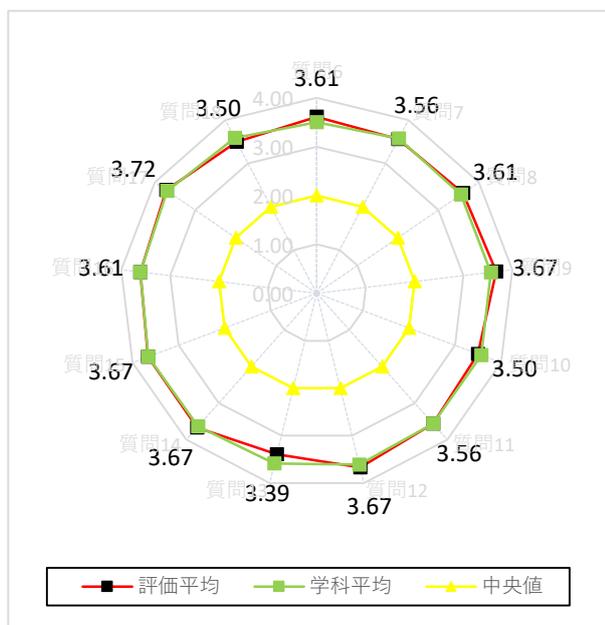
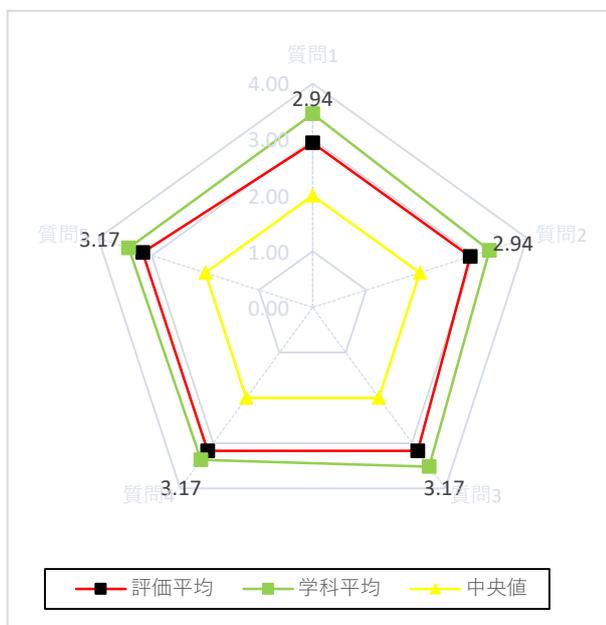
33名の回答。回答者については、全ての学生からの回答は得ていない。そのうえで、平均的な評価と捉えている。シラバスについては、毎回授業の開始直後に説明。質問13については、進行スピードが遅かったため、毎回進行状況については説明を実施した。が、学生に対して、もう少しまとめて説明をおこなうべきではなかったかと考える。

### (3) 次年度に向けての取り組み

授業内容を新カリキュラムに合わせた初年度とした年で、教員の授業資料等について、もう少し深掘すべきだったと感じる。次年度は、教科の内容について、学生と双方向の授業をもう少し進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		ソーシャルワークの理論 と方法Ⅳ	50名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

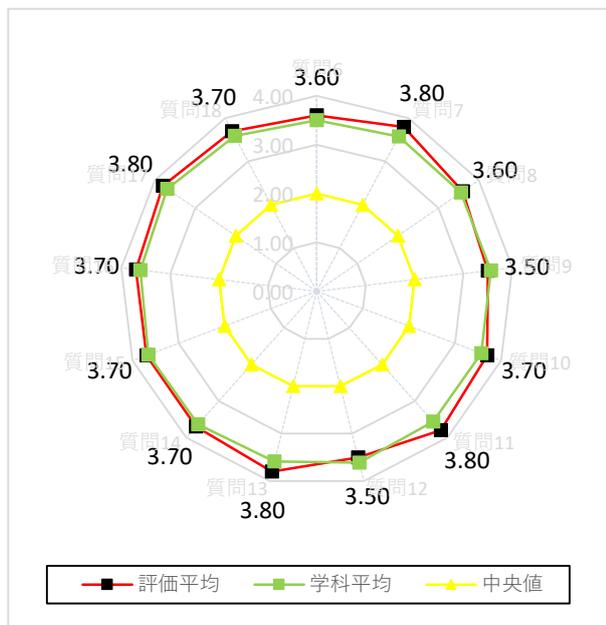
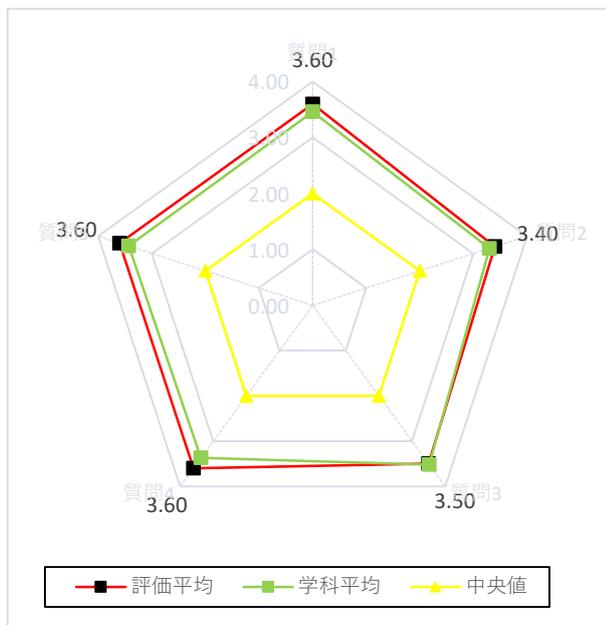
18名の回答。授業中に実施したが、回答率をさらに上げるための工夫を考えていきたい。新カリキュラムとなり、教科書内容が変更となり前半は時間をかけ、後半が時間が足りずスピードを上げていたので、結果は納得できる。今後、学生に対して、平均的なスピードで授業を進められるように努力を重ねていきたい。平均的であるが、更にわかり康良いように工夫が必要であると捉えている。

### (3) 次年度に向けての取り組み

進行スピードについては、次年度特に気を付けていきたい。また視覚教材や配布プリントについてわかりやすいようにしていく努力を重ねたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		ソーシャルワーク実習指 導Ⅱ 社会福祉援助技術実習指	36名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

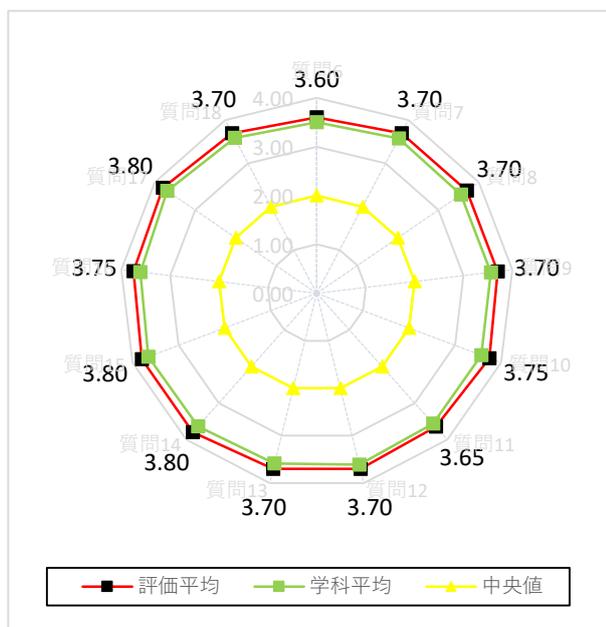
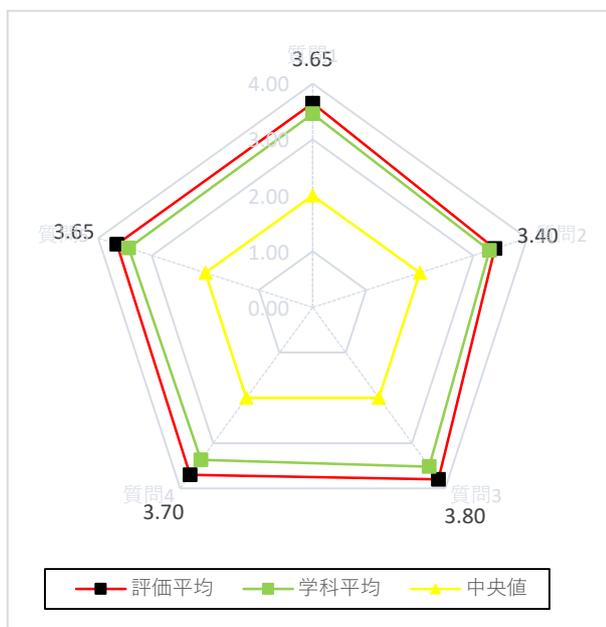
主教員のもと、3年次のソーシャルワーク実習に向けて、実務者による講義や施設見学などを充実させた。

### (3) 次年度に向けての取り組み

引き続き、実務者による講義と座学を組み合わせ、実践的理解につながる授業を展開していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		ソーシャルワーク実習指 導Ⅲ 社会福祉援助技術実習指	35名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

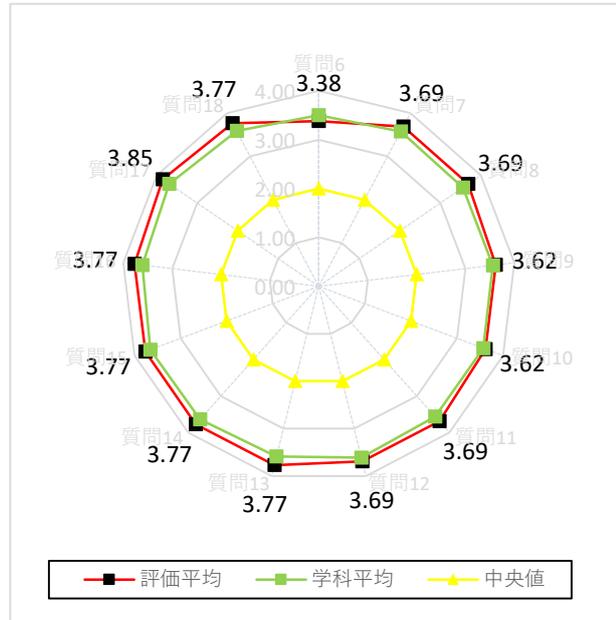
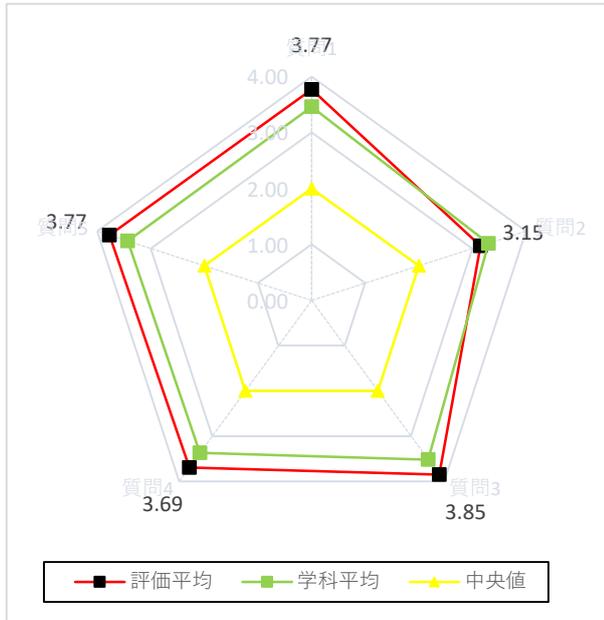
ソーシャルワーク実習実施年度の講義ということで、実習を有意義に体験できるような具体的計画書の作成指導を心がけた。

### (3) 次年度に向けての取り組み

来年度より、実習計画書および実習記録表はシステム使用になる。システムを活用した円滑な実習となるよう進めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		ソーシャルワーク実習 I	28名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

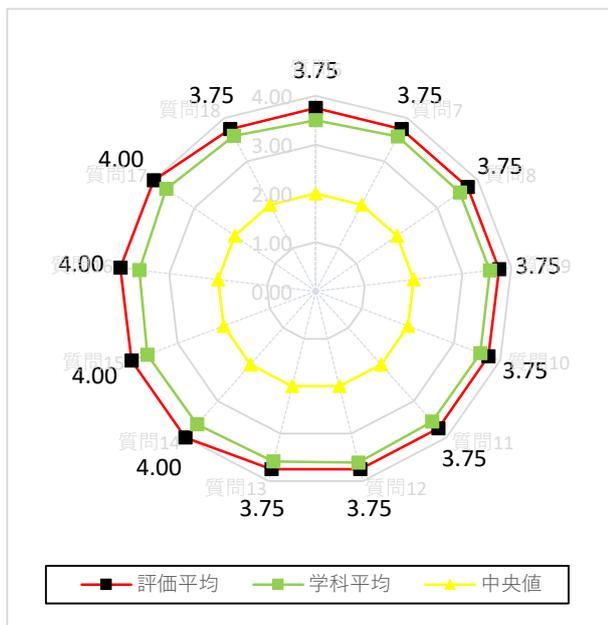
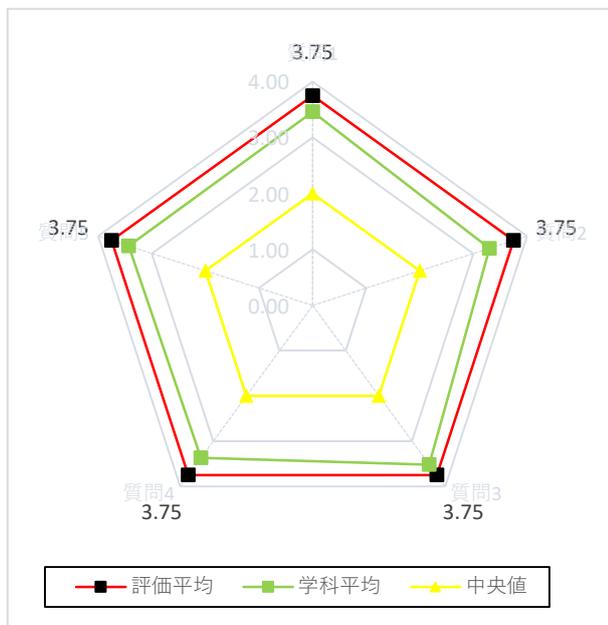
実習前後に実施される講義を含めて、ソーシャルワーク実習が有意義な体験となるよう、実習巡回を含めて対応した。

### (3) 次年度に向けての取り組み

来年度より、実習計画書および実習記録表はシステム使用になる。システムを活用した円滑な実習となるよう進めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		社会福祉援助技術実習	6名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

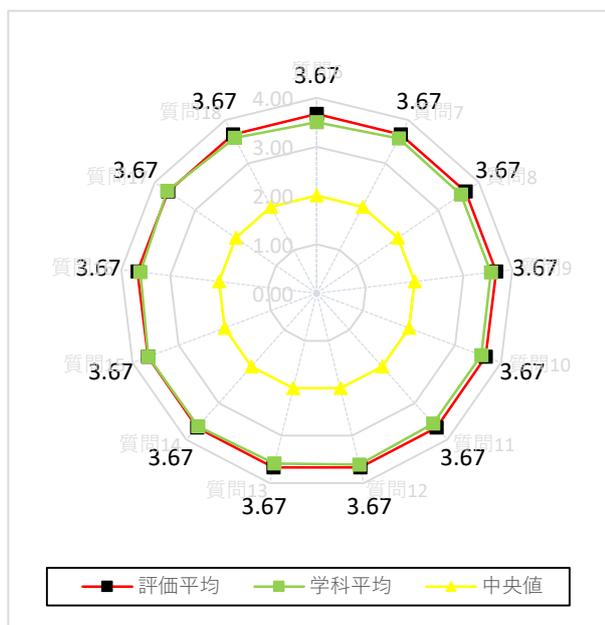
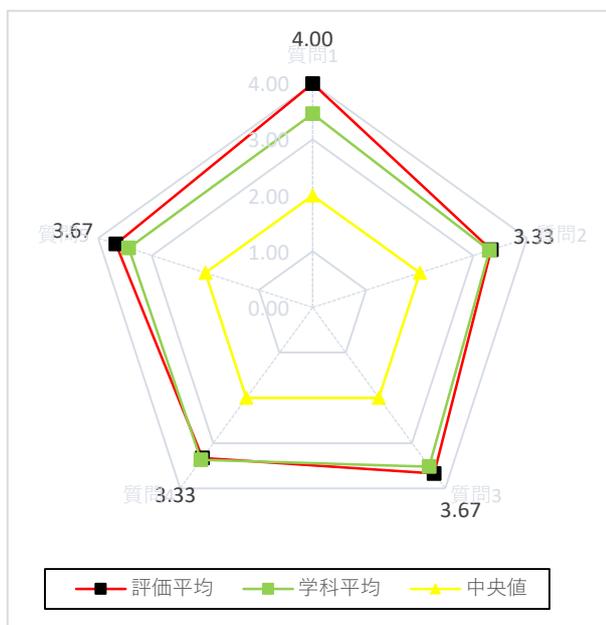
実習前後の講義を含めて、ソーシャルワーク実習が有意義なものとなるよう、巡回を含めて対応した。

### (3) 次年度に向けての取り組み

来年度より、実習計画書および実習記録表はシステム使用になる。システムを活用した円滑な実習となるよう進めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		ソーシャルワーク実習Ⅱ	7名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

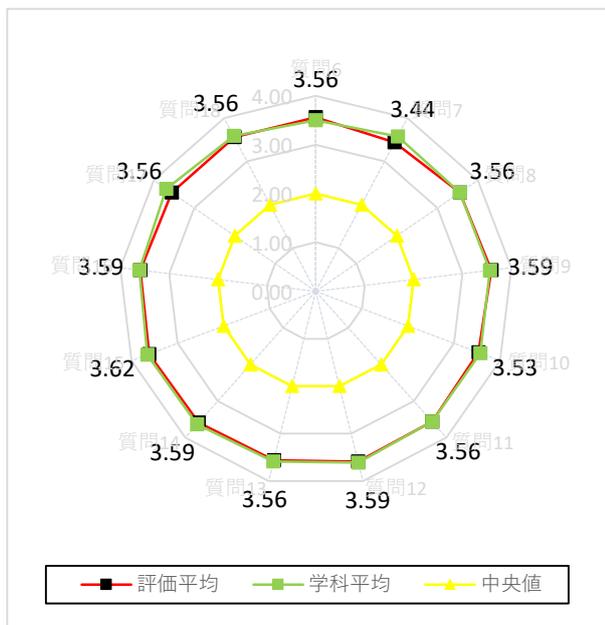
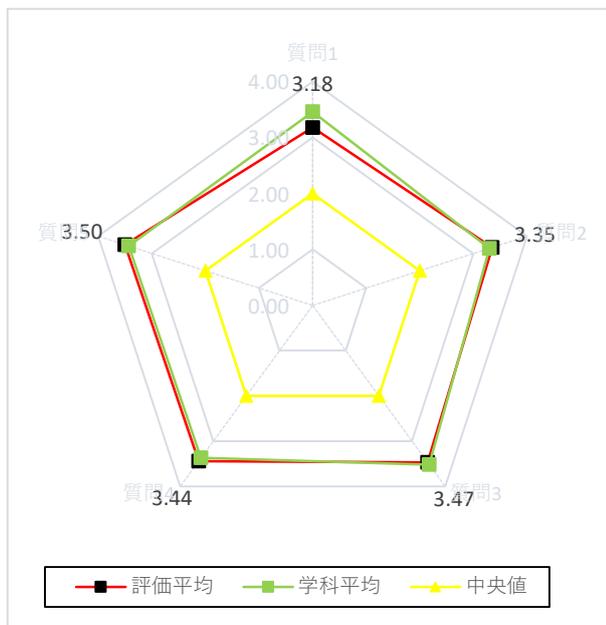
本実習を履修する学生は、ソーシャルワーク実習Ⅰを約1ヶ月間行った後に、間を置かずに2週間の実習であったので、体調面にも留意して実習をフォローした。

### (3) 次年度に向けての取り組み

来年度より、実習計画書および実習記録表はシステム使用になる。システムを活用した円滑な実習となるよう進めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		救急処置（学校安全を含む）	53名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

この授業は数名の教員で分担して担当し、集中講義の授業展開もあり週1回の定期開講でなかったことが、学生にとっては履修しにくい科目であったと思われる。結果、この科目履修者は53名であるものの出席状況で失格となった学生が8名いる。そのため、このアンケート回答率は75.6%であった。

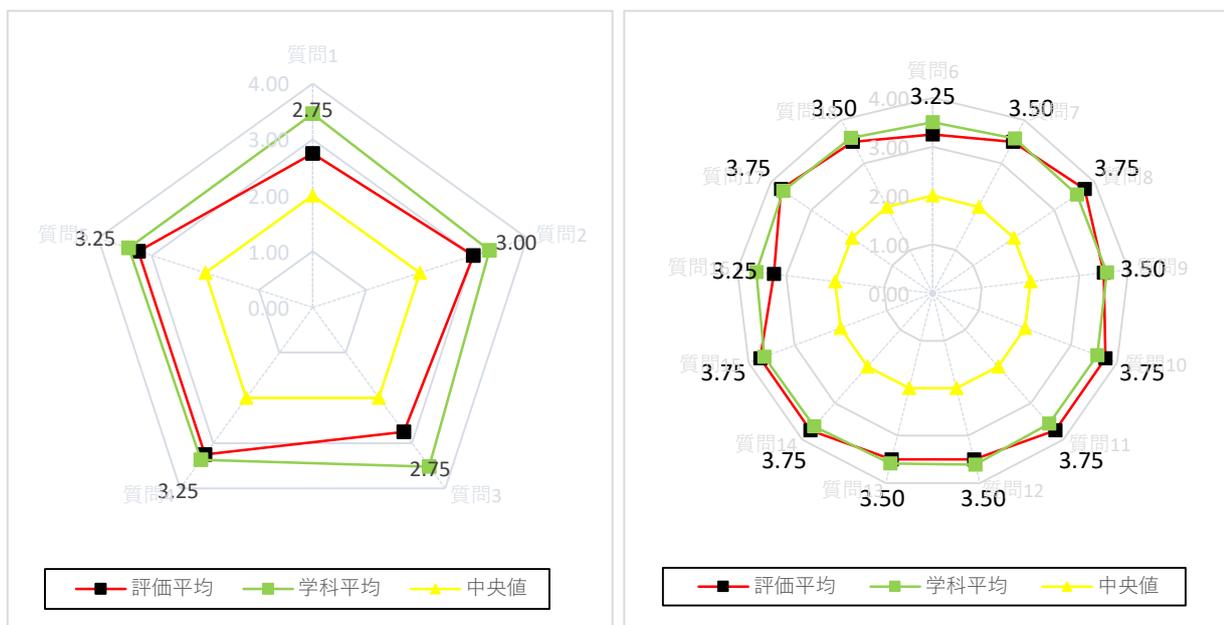
選択科目であるものの資格指定の科目であることから、質問1の授業出席の評価平均値は3.18であった。質問2から質問5までの自己評価平均は3.3から3.5までの値で、ある程度良好な状況と考える。また、質問6以降については1項目の除き3.5以上の評価平均値の高い値を得た。質問18の総合評価は3.56であった。

### (3) 次年度に向けての取り組み

複数名の教員で担当していることもあり、次年度は教員内での授業状況等の情報を共有することで少しでも授業改善に向けて各教員が取り組んで、よりよい評価が得られるよう努力したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		バイオメカニクス	51名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

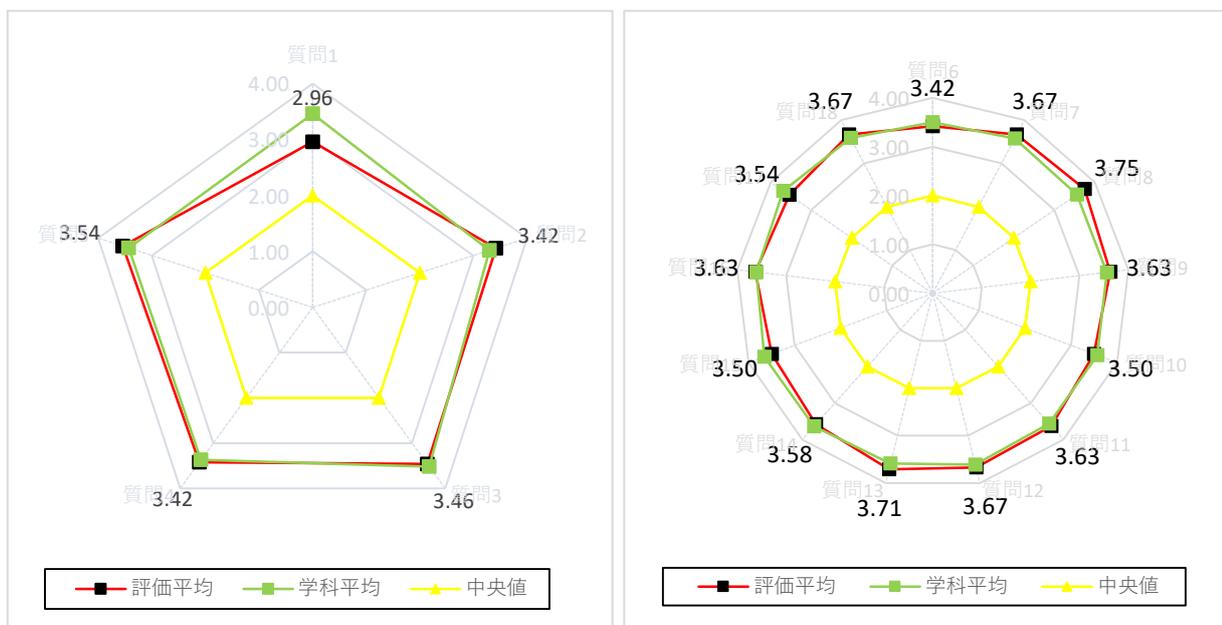
3年生を対象とした前期、選択科目である。数理的な側面のある科目であり、授業内容はもちろん試験で計算問題を課している。学生による得手不得手が出る科目であると認識している。苦手な学生は授業中に集中を欠く可能性があり、これが質問3で大きく評価を下げた理由であると思われる。初回授業ではシラバスについて十分に説明したつもりであったが、質問6の評価が低かった。説明の仕方を見直したい。ヒトの身体運動を扱うことから、イラスト・写真・動画などのマルチメディアを多用している。このことから質問8や質問10で高い評価が得られたものと思われる。授業初回に参考書籍を紹介したものの教科書は指定しておらず、毎回の授業でも資料の配布は行わなかったにもかかわらず、質問11の評価が比較的高いことは意外であった。原則、毎回の授業終盤に演習問題を提示しており、その解説を次回冒頭で行うことで前回の復習がなされることを意図した。しかし質問9や質問16の評価は十分とは言い難かった。

### (3) 次年度に向けての取り組み

この分野における学術的な動向や新たな知見、実践的な応用例を見落とすことなく追従し、授業内容の見直しを継続的に行っていききたい。授業の手法については、しばらく現在のものを継続することを基本に、学生の反応をみながら試行錯誤していききたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		運動方法学演習6（サッカー）	28名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

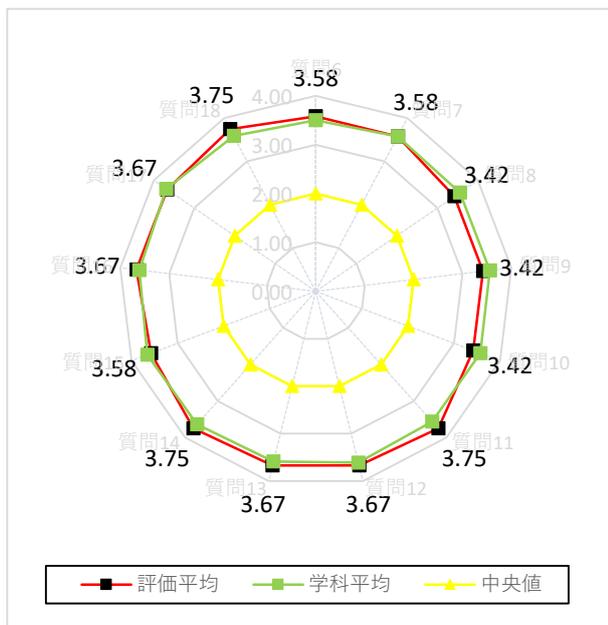
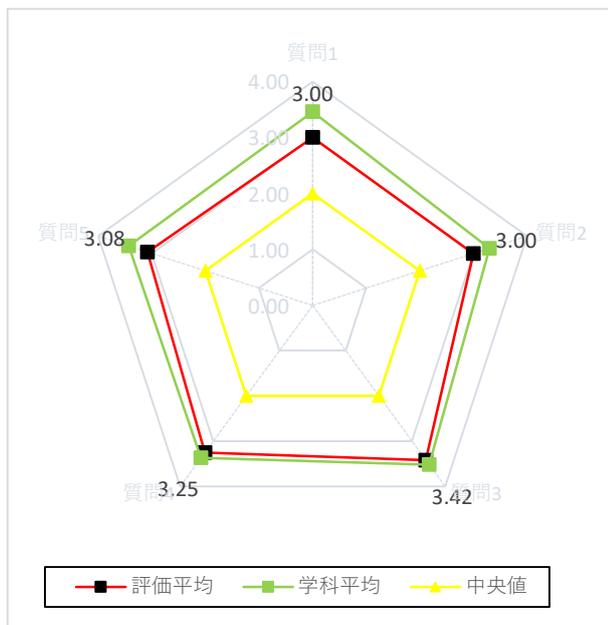
概ね授業計画に対する肯定的な評価を受けていたと判断できる。シラバスの説明等課題を残すものも見られたが、授業の進め方や狙いについては納得できるものであった。

### (3) 次年度に向けての取り組み

天候に左右されることが多く、授業計画を大きく変更することが数回あったが、事前の説明や予告等で学生の混乱が起きないように、最大限の努力はすべきであったと思う。また例年に比し、学生の欠席率が高かったことが課題として挙げられる。実技科目である以上、授業への出席は前提であり、評価にも加味されることを十分説明したうえで授業に望むべきであった。次年度への課題としたい。また上級学年の研修生としての受け入れをしている（昨年度は2名）が、授業計画の策定や振り返りに割く時間が少なかった。良い授業を実践させるためにも、この部分は来年度改善したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		トレーニング学特講	16名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

本科目は専門教育科目/学科専門科目/健康スポーツに関する科目/基礎科目(選択科目)として、3年次の後期に開講しており15名の学生が履修した。

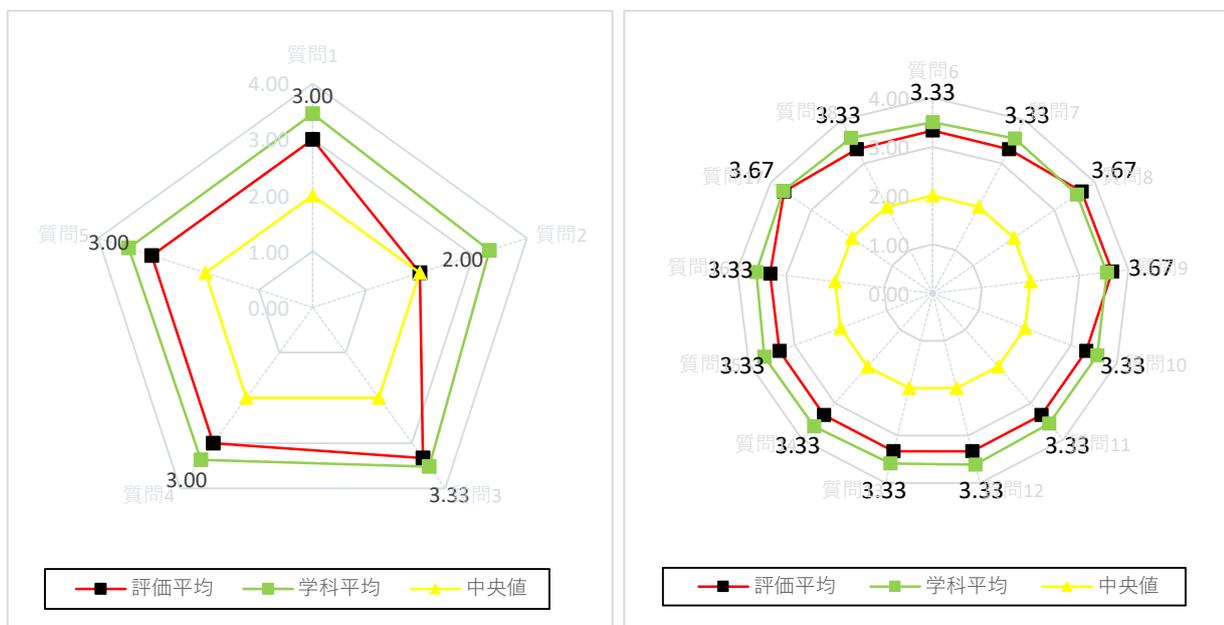
履修学生15名のうち12名から回答があり、ほぼすべての質問項目において学科平均値と同程度、または若干下回る評価を得た。ただし、教員の対応に関する質問項目14「学生への対応」および16「双方向的なやり取り」は一定の評価を得たことから、学生の学ぶ意欲に応えた学修を進めることができたと考えられる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

基本的には昨年度に準じた取り組みを実施する予定であり、さらに学生の意欲を引き出す働きかけを行っていきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		こころとからだのしくみ	15名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

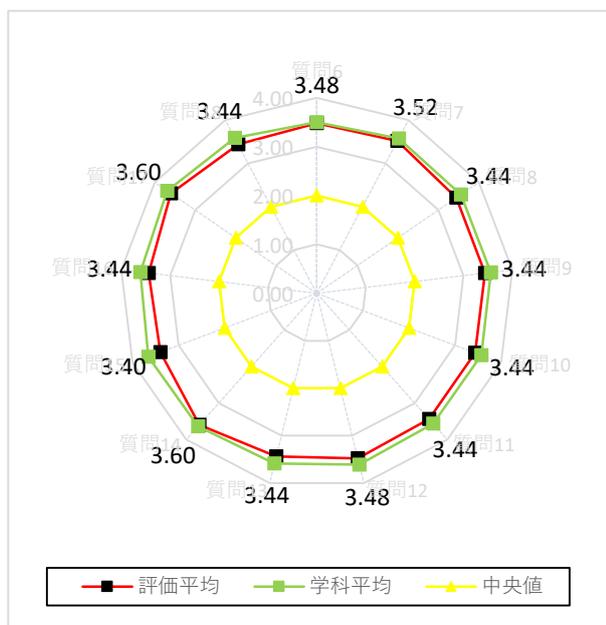
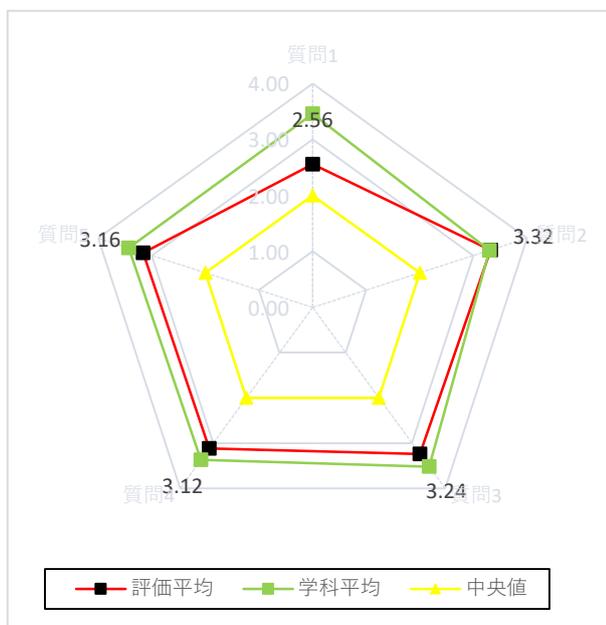
質問2「シラバスの活用」の得点が特に低い。シラバスは初回の説明（オリエンテーション）のみであったため、学生の理解につながらず活用できなかったと考える。

### (3) 次年度に向けての取り組み

毎回の授業冒頭に授業計画を示し、学生が意識的にシラバスを活用し学びにつなげることができるよう、丁寧な説明を行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		測定評価	33名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

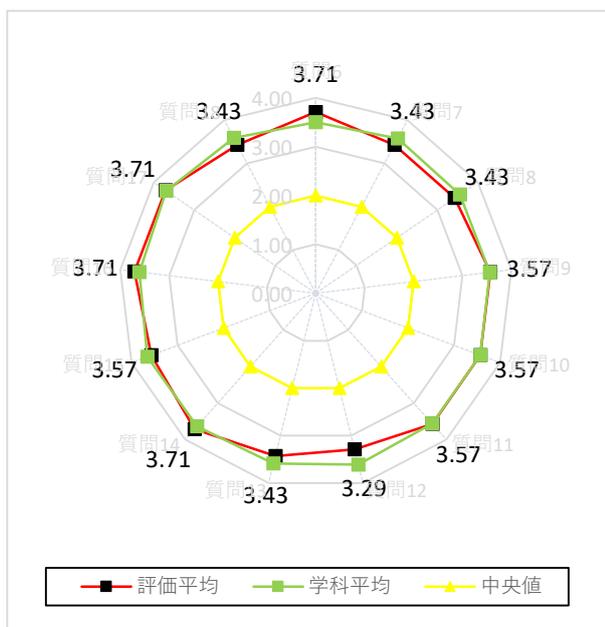
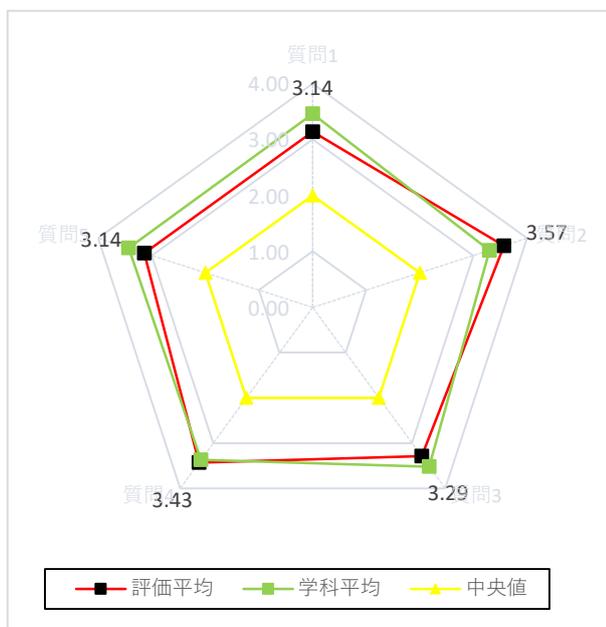
履修者33名の内25名からの回答（76%）が得られた。学生自身の評価項目（質問1から質問5）では、まず出席状況に関する質問1で評価平均が2.56と低い値を示した。その他の項目評価も3.1から3.3で良好とは言えない状況であった。質問6から質問18までの評価平均は3.4以上であったことから、まあまあの評価を得たものとする。質問18の授業の操業評価は、3.44であった。

### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、全体的に評価平均値を少しでも上げられる努力を示したい。特に教科への興味を深める授業の工夫をすることで、学生の出席状況の改善にもつながるものとする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護概論Ⅱ	9名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

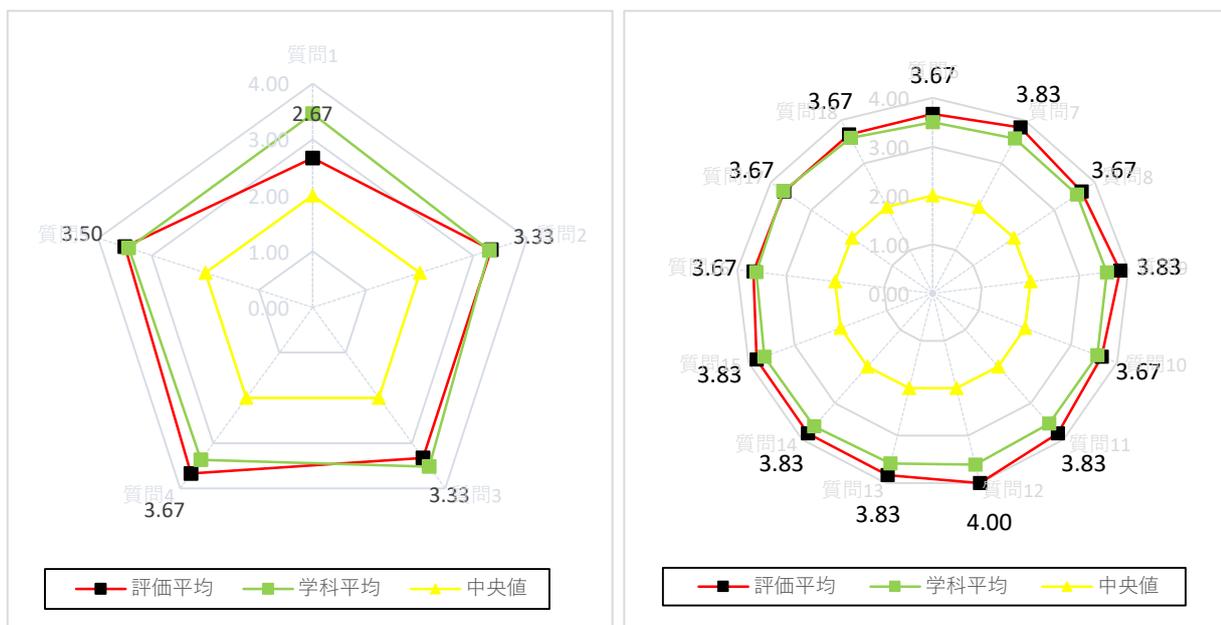
7名の回答。問1 2が平均以下であり、大きさ、明瞭さ、話す速さについて、気を付ける必要がある。また、質問1 8については平均以下となり、自由記述には書かれていないため、分析がしにくい。もう少し興味を持てる内容にすべきだと考えた。問1 5について公平に学生に対応していたつもりであるが、そう捉えられない場面があったのだと考えるため、今後十分に注意していきたい。

### (3) 次年度に向けての取り組み

上記、問1 2 問1 5 問1 8については、特に振り返りを行いながら、学生の状況を確認しながら進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		地域スポーツ実践演習 I	8名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

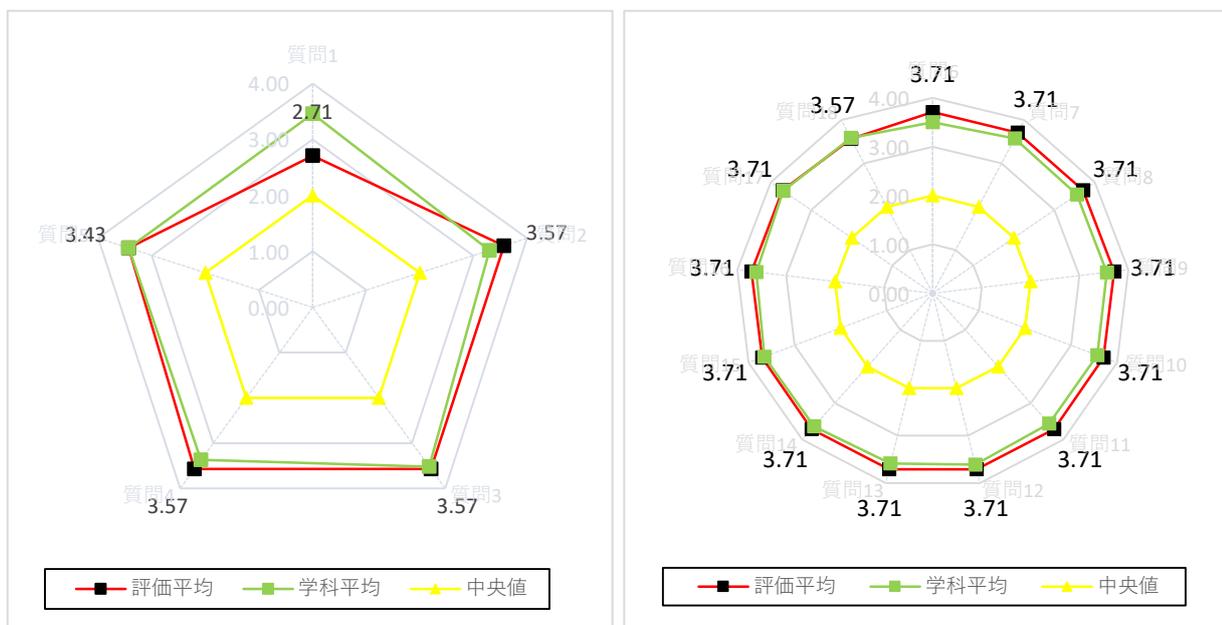
この授業は、学年全体で行う講義形式の授業とゼミ単位での学外活動で展開されている。土曜日などの指定授業日以外での授業もあり、サークル活動等で欠席者もあった。そのため質問1の出席状況に関する項目の評価が2.67と低かった。それ以外は3.3以上の評価平均値で、学生自身の総合評価（質問5）では、3.5であった。質問6から質問18までの項目では、3.6以上の高い評価を得た。特に質問12では4.0と全ての学生から良いとの評価であった。

### (3) 次年度に向けての取り組み

授業出席については、無断欠席しないように指導するとともに、サークルの活動による欠席については公欠届を事前に提出するよう指導したい。学外活動でもあることから授業への興味や関心も高い。将来にも活かせる内容も多いため、学生とのコミュニケーションを取り授業を展開していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		地域スポーツ実践演習 I	9名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

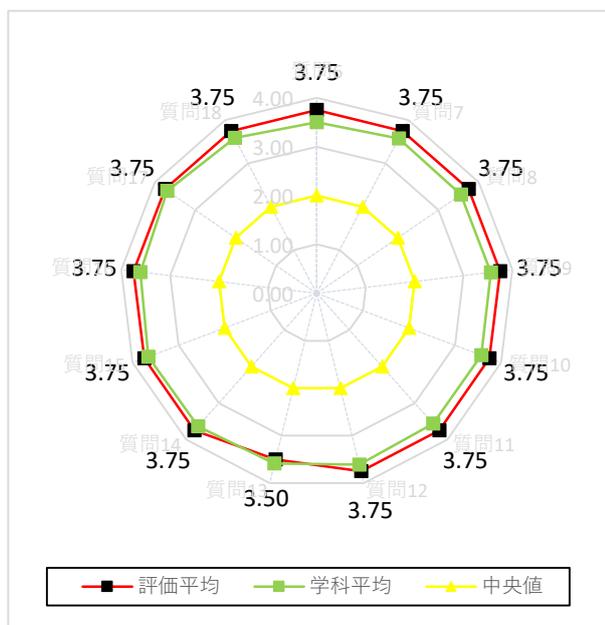
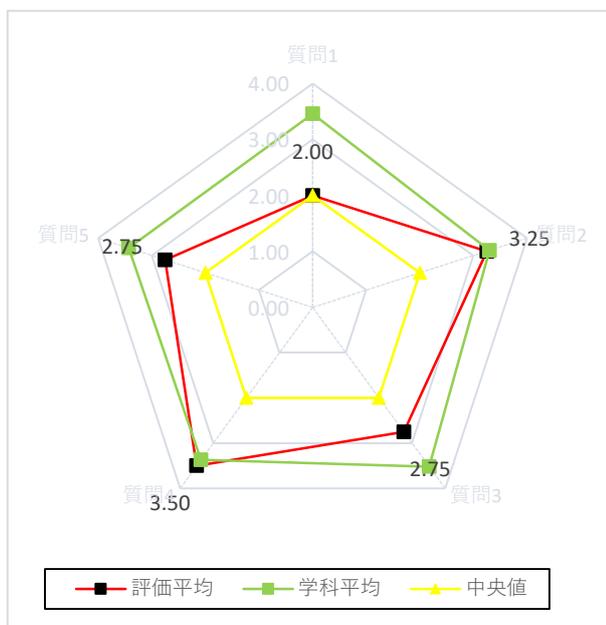
本科目は専門教育科目/学科専門科目/健康スポーツに関する科目/生涯スポーツ支援関連科目(選択科目)として、2年次に通年で開講している。私が担当するゼミ生8名が履修した。履修学生8名のうち7名から回答があり、ほぼすべて質問項目において学科平均を上回る結果となった。一方、自身の授業参加態度に関する項目の質問1「欠席回数」が学科平均を下回ったことから、自己管理を促す声かけが必要であると考えられる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

基本的には昨年度に準じた取り組みを実施する予定であり、自己管理を促す働きかけを行っていきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護サービス利用者論	7名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

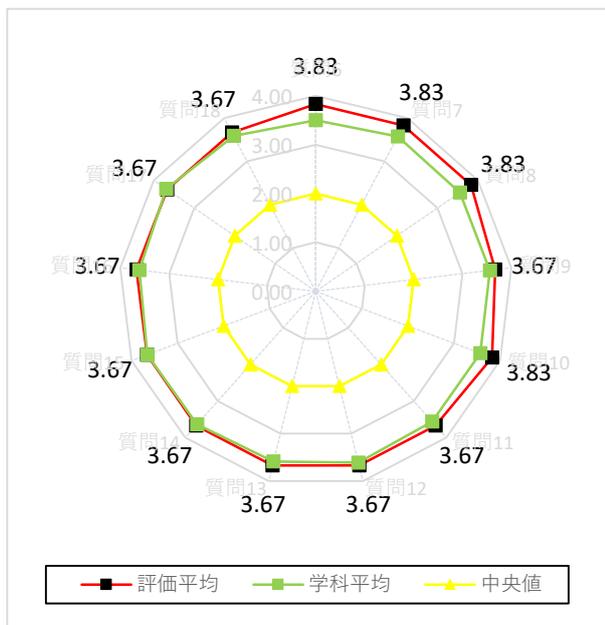
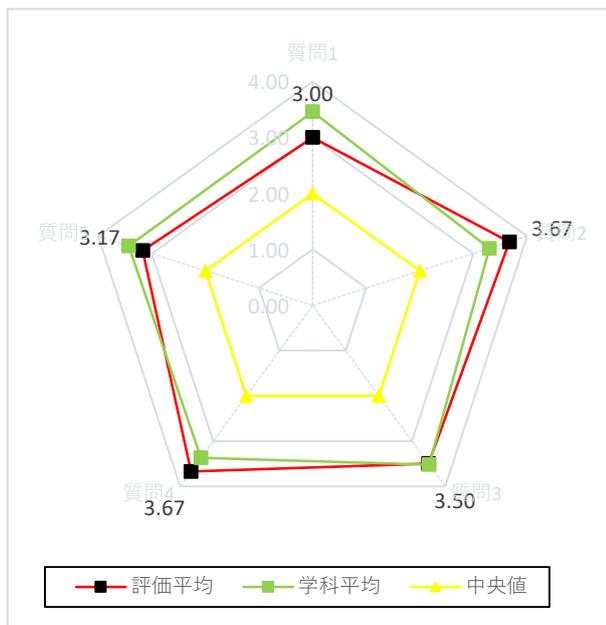
4名の回答。授業中の回答としたが、全員が回答してもらえようようにさらに声掛けをしていきたい。問13について、授業の進め方が十分でなかったと捉えている。各回において、学生の理解を確認しながら、平均的に進めていく必要があるかと思うので、今後の課題にしていきたい。

### (3) 次年度に向けての取り組み

回収率を上げることを行いたい。また、授業の進行について、授業計画に基づき、内容を整理し進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護サービス論 I	10名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

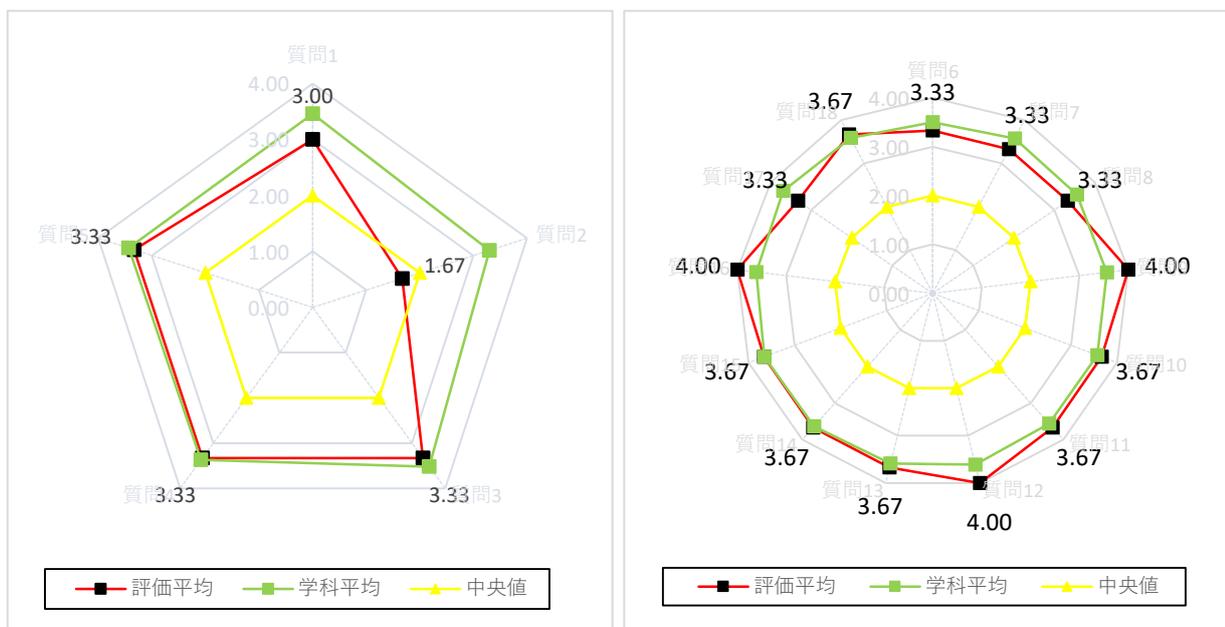
問1については、学生の実習等との重なりもあり、公欠があったことからではないかと捉えている。  
 問7・8・10については、視覚教材や事例等をいれ わかりやすく説明した結果学生にとって良い方向に結果が出たのだと考える。おおむね平均同等なので、今後も精進していきたい。

### (3) 次年度に向けての取り組み

視覚教材やPPTを利用し、より具体的にイメージが出来るように、理論と演習が結び付けられやすいように、授業を展開していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護サービス論Ⅱ	7名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

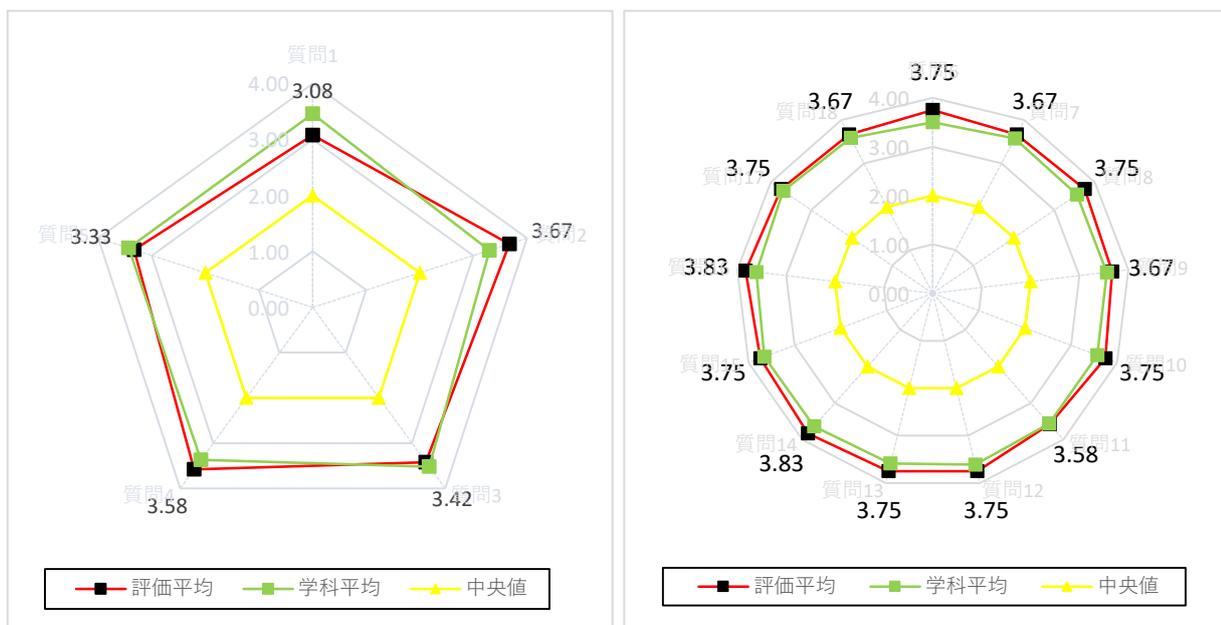
3名の回答。回答率を上げることが必要である。質問8と質問17に対しては、3名中1名が2と判断している。授業内容については、興味を持てるように工夫する必要があったと捉えている。その取り組みが不十分だったのではないかと取らえている。質問2のシラバスについても毎回説明をし、その進行についても地縁がある場合は修正していたが、理解しやすい工夫が必要であったと反省する。

### (3) 次年度に向けての取り組み

回答率を上げ、内容についても整理を行いたい。資料等をさらに工夫し、興味を持てる内容としていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		発育発達論	38名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

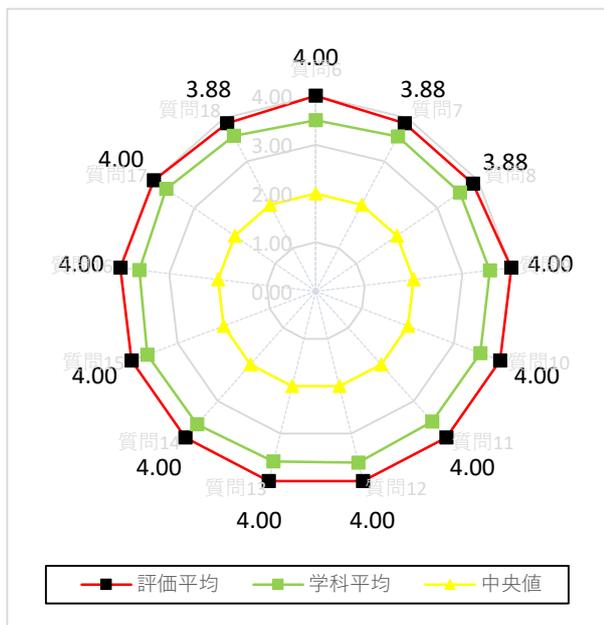
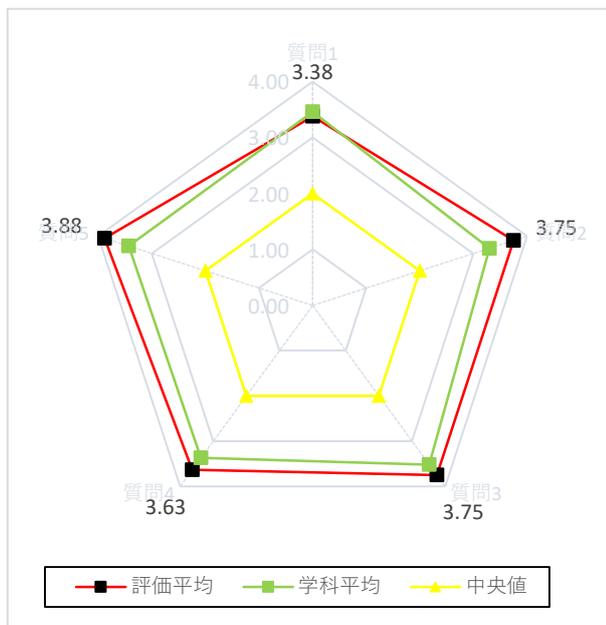
新入生を対象とした前期科目であり、全体的に良好な評価を得られた。授業初回に参考書籍を紹介したものの教科書は指定しておらず、毎回の授業でも資料の配布は行わなかったため、質問11の評価が幾分低かったものと考えられる。初回授業ではシラバスについて説明したことから、質問6の評価が良好であったと思われる。原則、毎回の授業終盤に演習問題を提示しており、その解説を次回冒頭で行うことで前回の復習がなされることを意図した。質問9が良好であった一因と考えられる。演習問題実施中は他学生との相談や議論を認めることで、授業理解への工夫があったと考えられることから、質問4、質問8の高評価につながったと思われる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

この分野における学術的な新たな知見や動向を見落とすことなく、授業内容の見直しを継続的に行っていきたい。授業の手法については、しばらく現在のものを継続することを基本に、学生の反応をみながら試行錯誤していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		応用生活支援技術V (ターミナル期)	9名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

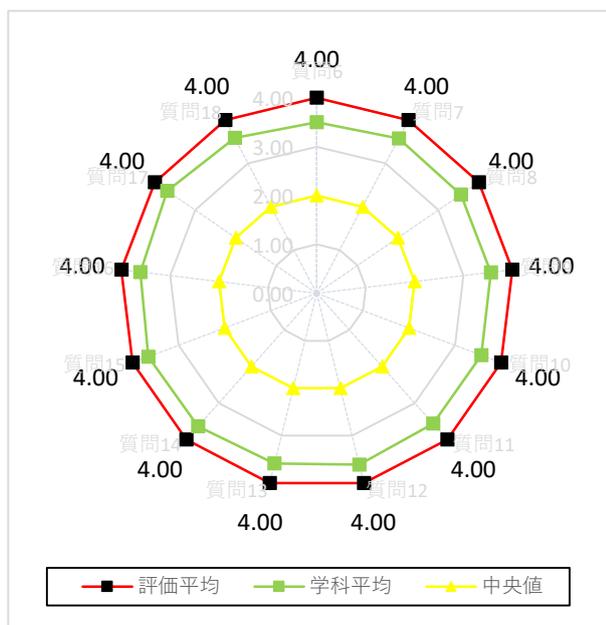
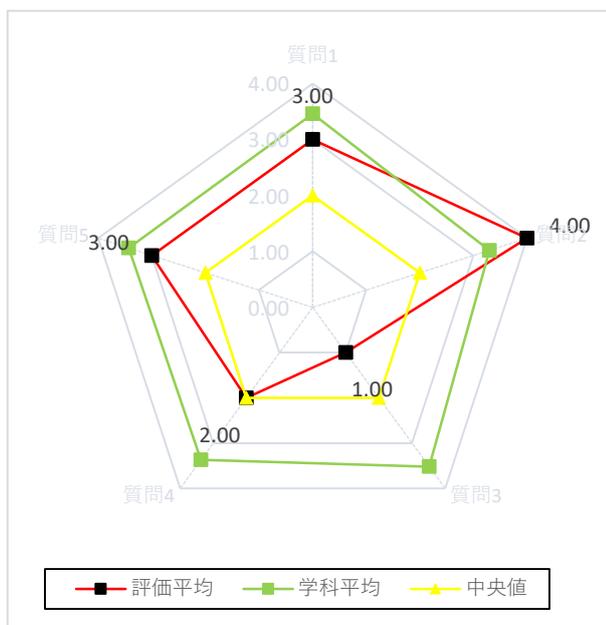
バランスの良い評価である。若干、学生の欠席がみられた。

### (3) 次年度に向けての取り組み

欠席をしないよう、興味を引く題材などを用い授業展開の工夫を行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		健康産業施設等現場実習	8名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

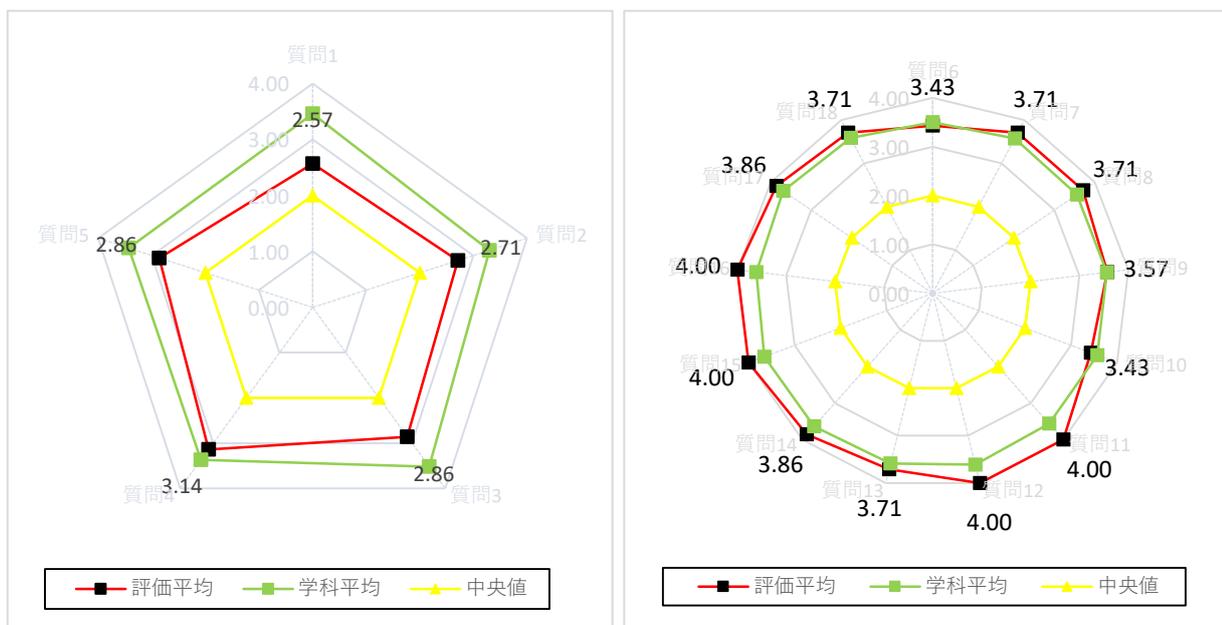
履修者5名（前期2名、後期3名）の内の1名（後期）からのアンケート回答で、全体的授業の評価には至らないが、今後の授業改善に活かしたい。この授業は、実習でもあり個別指導の対応であった。日々の実習日誌を書き、施設の担当者よりコメントを頂き、振り返りを行うことで、充実した実習に取り組めることができる。今回のアンケート結果では、個人の授業評価に厳しい回答項目もあったものの、質問6以降の評価平均が全てに4.0であったことから、この学生にとっては良好な授業であったものと察する。

### (3) 次年度に向けての取り組み

実習の事前、事後指導をさらにこまめに指導、支援していきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		健康運動総合演習 I	8名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

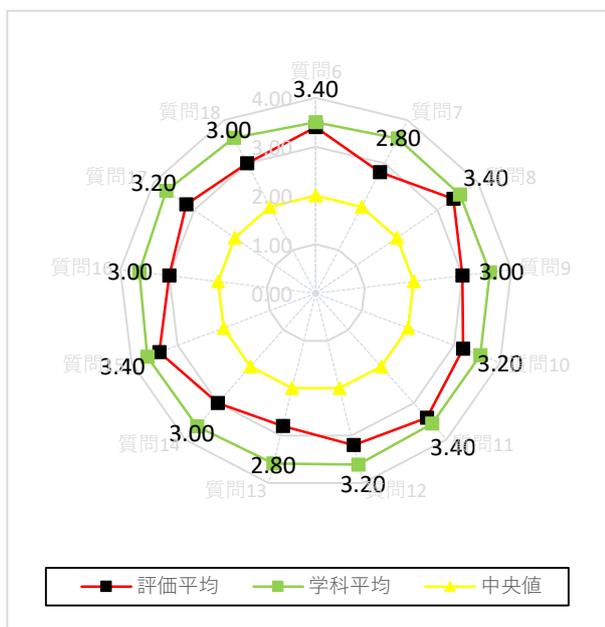
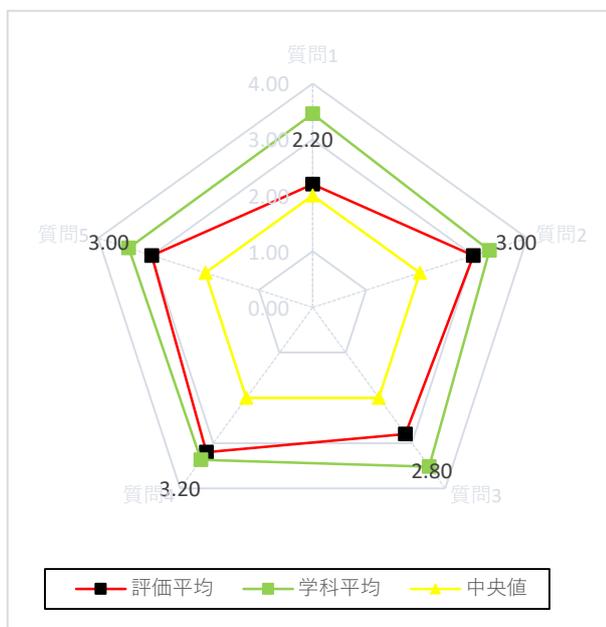
履修者8名の内、失格者以外の7名全員より回答を得た。この授業は資格試験対策講座の授業で、筆記試験と実技試験の取り組みである。特に筆記試験の対応はこの授業内では十分でないために、自己学習が重要となる。そのために、自己学習の取り組み状況を確認したり、日々の学習時間の確保等を促した。実技に関しては、これまでの試験評価委員の経験を活かしての指導で行った。そのため、アンケートの質問6以降の授業評価平均も3.4以上の高い評価であった。質問1から質問6の学生自身の評価では3.0以下の値の項目もあり、改善のためのこまめな指導を促したい。

### (3) 次年度に向けての取り組み

今年度の資格試験の合格率が低かったことから、次年度は特に筆記試験の対応を考えたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		地域スポーツ実践演習Ⅱ	6名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

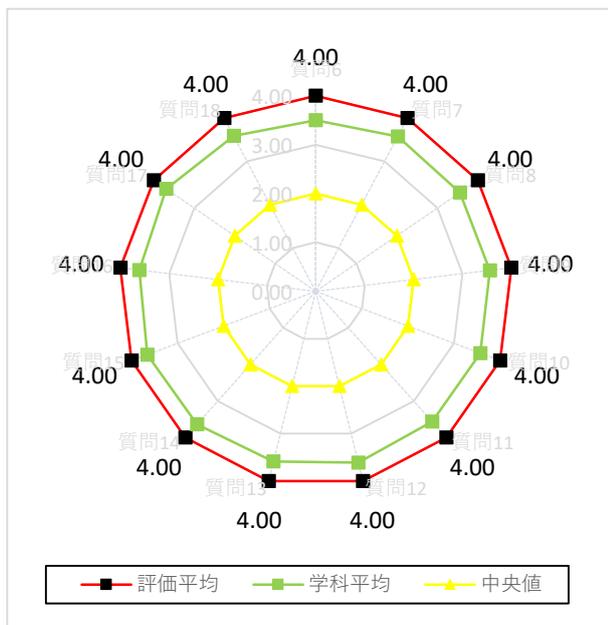
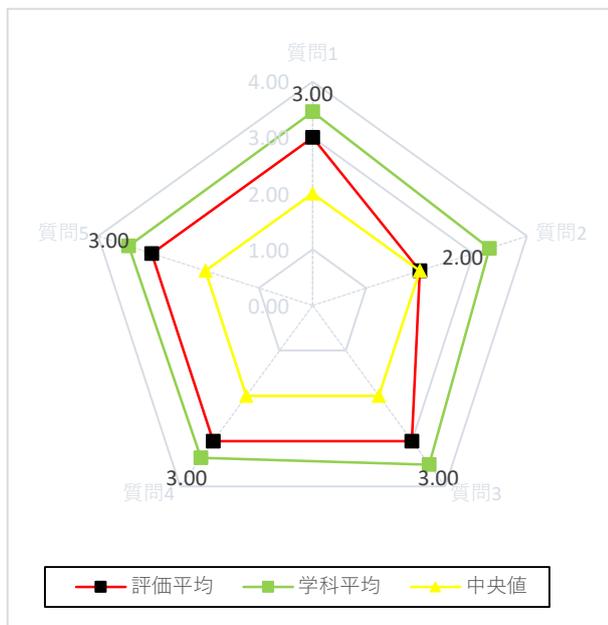
ゼミ生の6名の内の、5名からの回答であった。質問1から質問5までの学生自身の授業評価項目で特に出席状況の評価値が低い(2.20)。全体的にも3.0程度の状況で、質問6以降の評価でも2項目以外で3.0以上の結果であったものの、決して良好な状況とは言えない。

### (3) 次年度に向けての取り組み

学外活動での取り組みであることから、詳細な計画や準備の指導を行って改善に努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		応用生活支援技術Ⅲ(医療ニーズ)	7名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

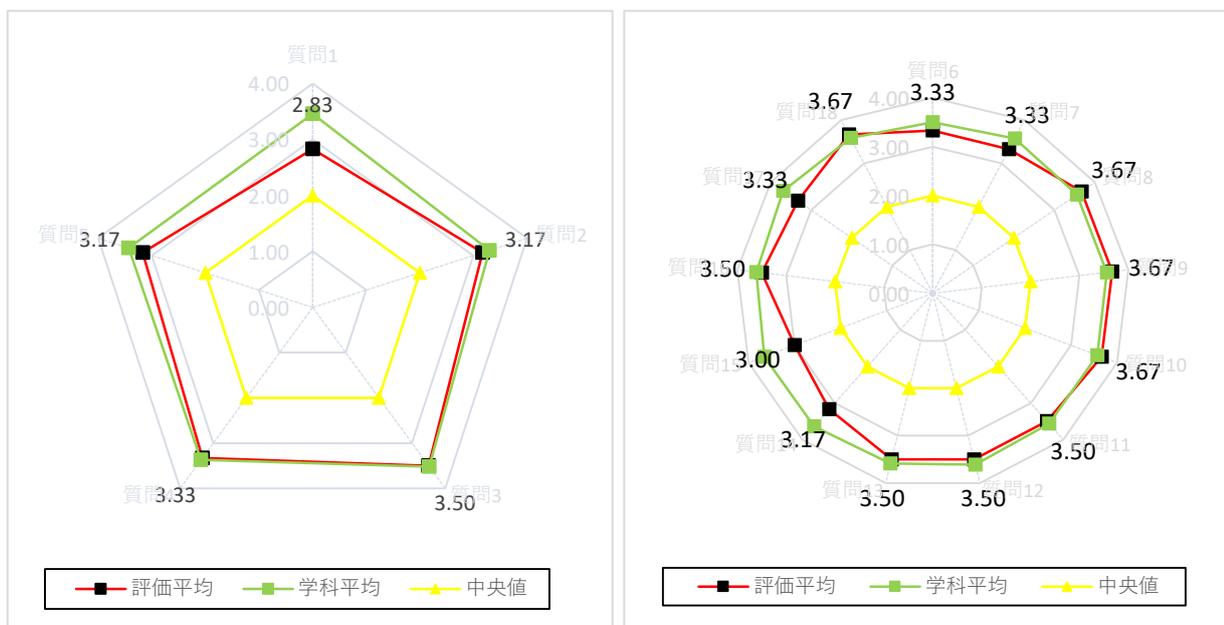
質問2「シラバスの活用」について、評価が低い結果であった。  
初回の授業でのみしか「シラバス」の説明を行わなかったことが、活用を促さないことにつながっている。

### (3) 次年度に向けての取り組み

毎回の授業冒頭で「計画」を説明する。  
学びの段階や経過を学生が理解し、今後の展開を予測した予習や復習につなげるためのシラバス説明を丁寧に行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		救急処置	12名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

この授業は、他学科の「救急処置（学校安全を含む）」と一緒に開講している。そのため人数も多く、特に実習では私語も多く不快な思いをした意見の自由記述もあった。さらに、複数教員での担当で授業を展開したため不定期で集中講義での開講もあり、履修者にとってはスケジュール管理が難しいかったと思われる。

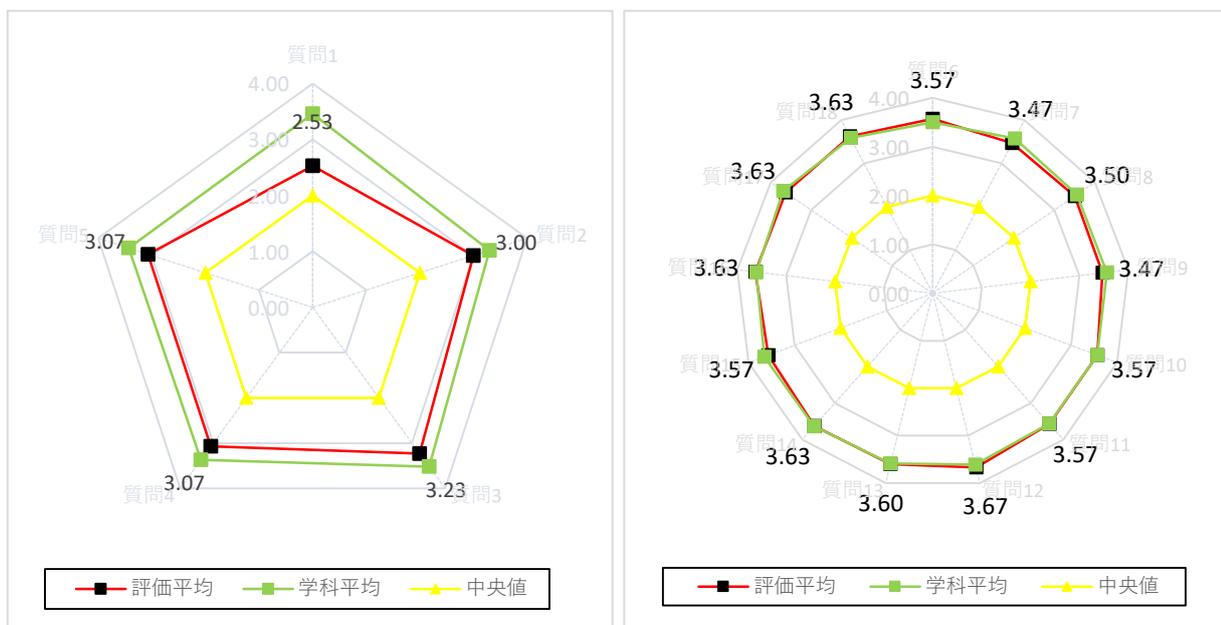
質問1の出席状況の自己評価は2.83と低値であったが、その他は3.0以上で質問5の学生自身の自己総合評価では3.17であったことから、まあまあの評価であったと察する。質問6から質問18までの評価平均では質問15の公平な対応に関する項目で3.0と他の項目よりも低い値だったが、その他の項目についてはそれ以上の評価であったことで、ある程度良好な授業評価が得られたものと考えられる。質問18の総合評価は、3.67と高い評価であった。

### (3) 次年度に向けての取り組み

複数名の教員で担当していることもあり、次年度は教員内での授業状況等の情報を共有することで少しでも授業改善に向けて各教員が取り組んで、よりよい評価が得られるよう努力したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		高齢者の健康と運動	41名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

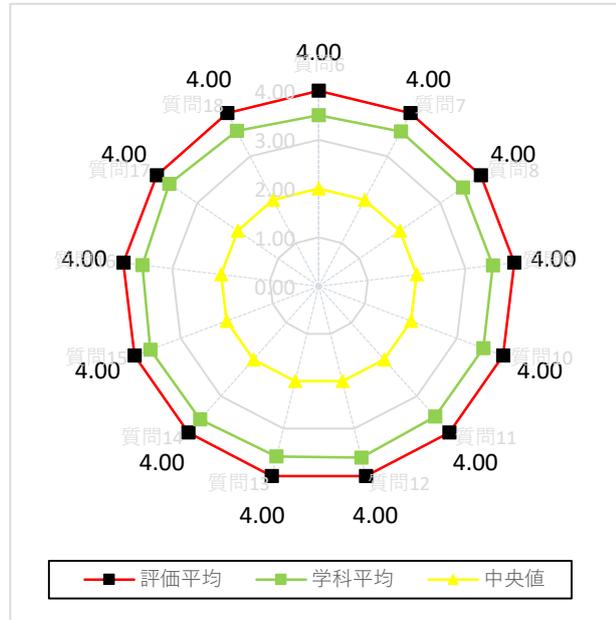
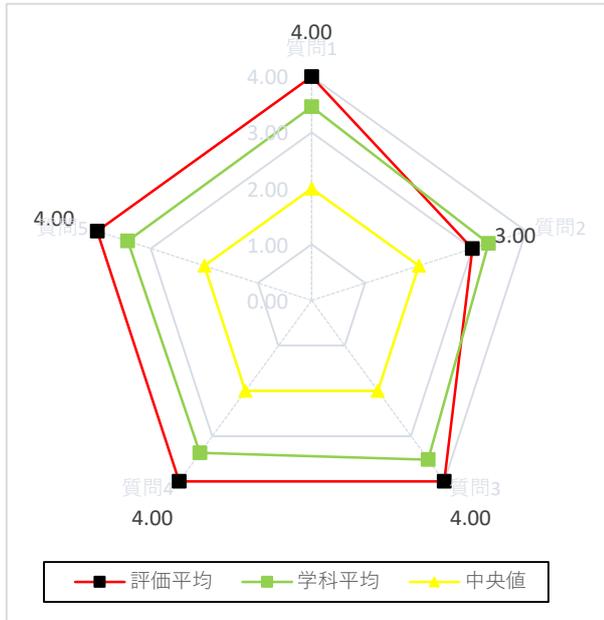
本科目は専門教育科目/学科専門科目/健康スポーツに関する科目/健康運動支援関連科目(選択科目)として、3年次の後期に開講しており35名の学生が履修した。履修学生35名のうち30名から回答があり、自身の授業参加態度に関する質問項目はすべての項目において学科平均値を下回る評価となり、その他(授業内容・方法、教員の対応)の項目は概ね学科平均と同程度の評価を得た。特に、自身の授業参加態度に関する項目の質問1「欠席回数」が学科平均を大きく下回ったことから、自己管理を促す声かけが必要であると考えられる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

基本的には昨年度に準じた取り組みを実施する予定であり、自己管理を促す働きかけを行っていきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護実習V	9名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

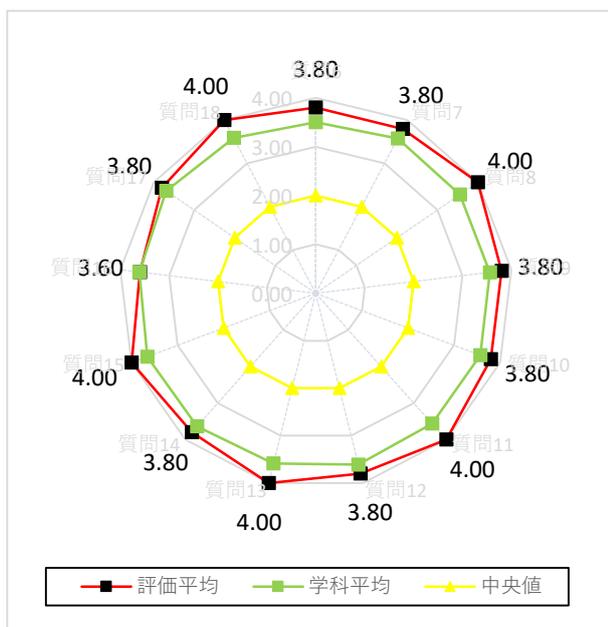
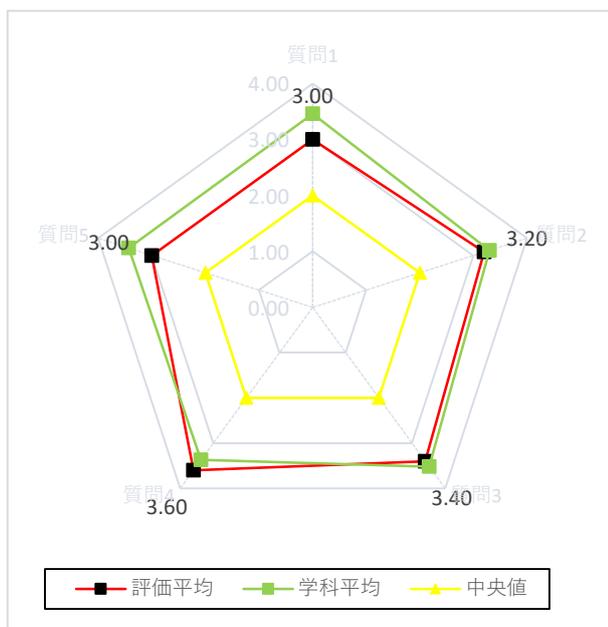
2名の回答。回答については、2名については、問2以外の項目については、満足する結果であった。なによりも、回答率を上げることが必要である。実習という学外での内容であるため、評価については、捉え方をしっかりと分析していきたい。

### (3) 次年度に向けての取り組み

回答率を上げる工夫をしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護過程入門	8名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

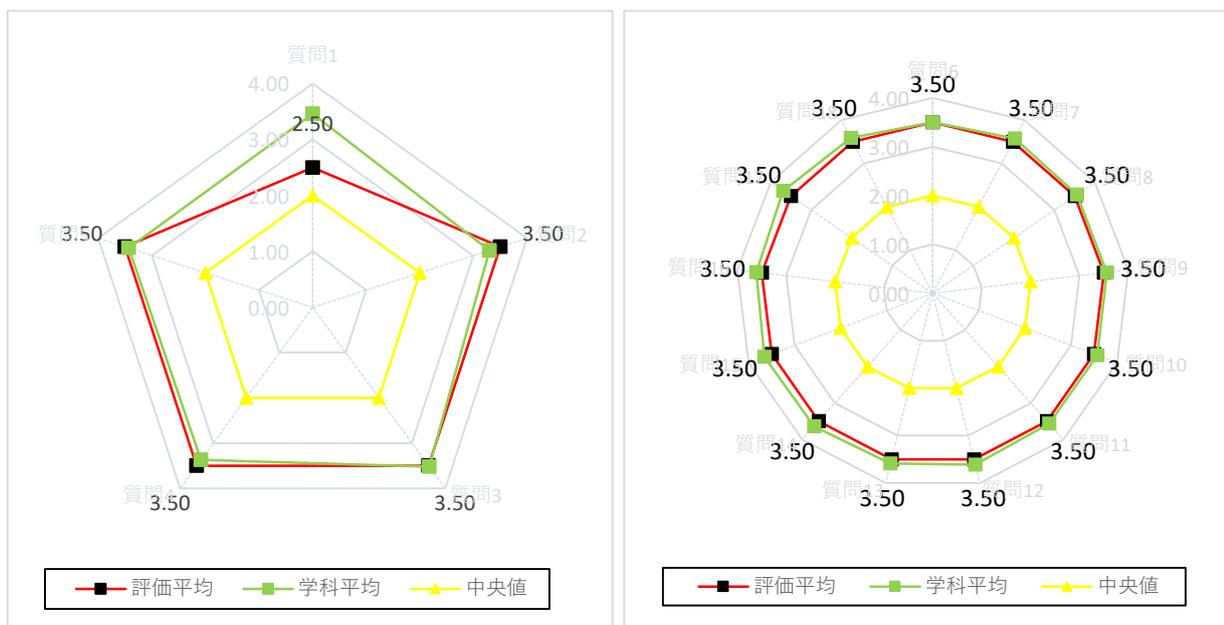
8名中5名の回答。問16について、他の項目よりも低く、双方向間のやり取りが、少し説明が多かったからではないかと捉えている。  
 進み具合が少し早いのではないかと考えていたが、学生目線によかったのであれば、安心した。全員からの評価回答をしてもらえるように、今後も促していきたい。  
 問5については、自分自身の総合評価が低いので、学んだと実感できる内容に、教員側が工夫し、より深化させていく必要がある。

### (3) 次年度に向けての取り組み

全員からの回答を促進する。理論と演習があり、理論については双方向間のやりとりが少ない場合もあるが、演習を少し工夫し、今後に役立てていきたい。  
 また、学生自身の総合評価を上げていくための工夫を考えていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		スクールソーシャルワーク	7名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

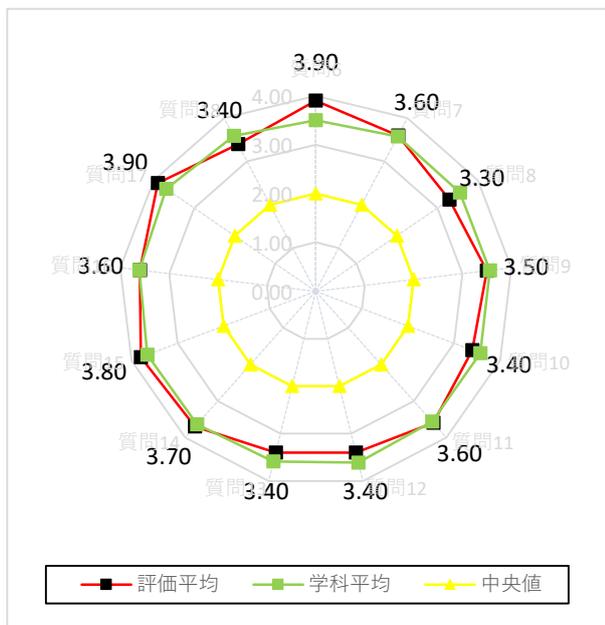
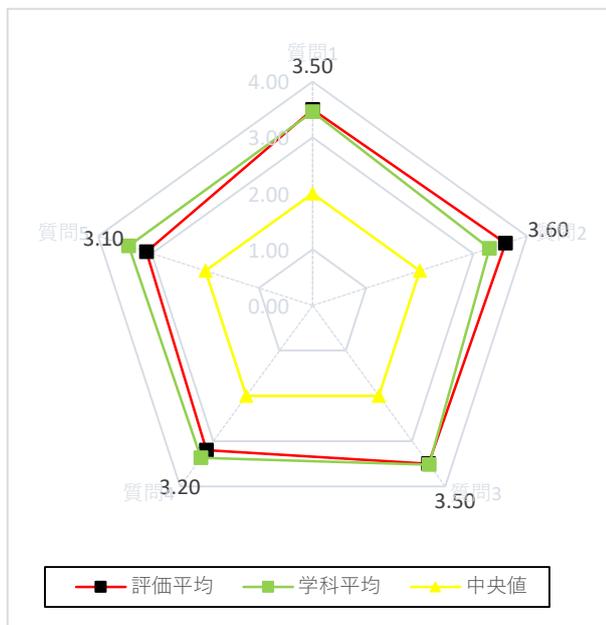
履修登録者数が少ないことから、量的な評価が難しいが、学生の自己評価として、出欠状況が低評価であるが、就職活動、体調不良などで、欠席した学生がいたが、集中講義のため1日出席できないと1/3を欠席したことになるため、このような評価だったと考えられる。出席者は、自己評価にもあるように熱心にグループワークに望み、発表をしていたが、その結果が自己評価に結びついていると考える。教員評価については、おおむね学科平均と同様であるが、教員の授業への姿勢が学科評価よりやや低かった。質問をしやすい雰囲気づくりの声かけ、質問には随時答えるよう心掛けたつもりであるが、認識のずれがあった可能性がある。

### (3) 次年度に向けての取り組み

単に質問に自分なりに一生懸命応えるのではなく、受講生の理解状況なども確認するなど双方向的なコミュニケーションを行い、一緒に講義を作り上げていくように取り組む。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護総合演習 I	10名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

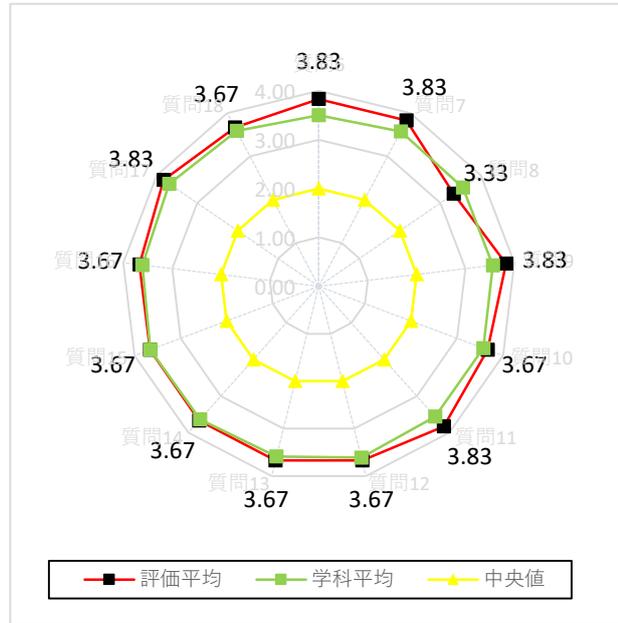
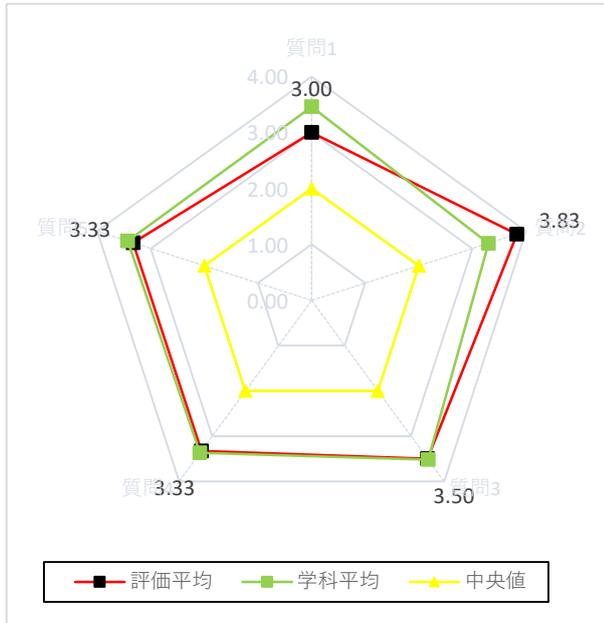
2年生10名中10名の回答。実習前の演習であるため、欠席者への連絡補講。各回の内容についての提示を行ってきた。興味を持てるというよりは、おこなわなければならないことを進めてきたので、質問8は学科平均以下と考える。3名の自由記述においては特に問題ないとのことであった。問6・17については、学生により良い学びを伝えられればと取り組んできたことが結果として表れていてよかったと考える。

### (3) 次年度に向けての取り組み

平均点以下の項目については、学生により興味を持ってもらえるようにPPTや声の大きさ等についても工夫を重ねていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護総合演習Ⅱ	9名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

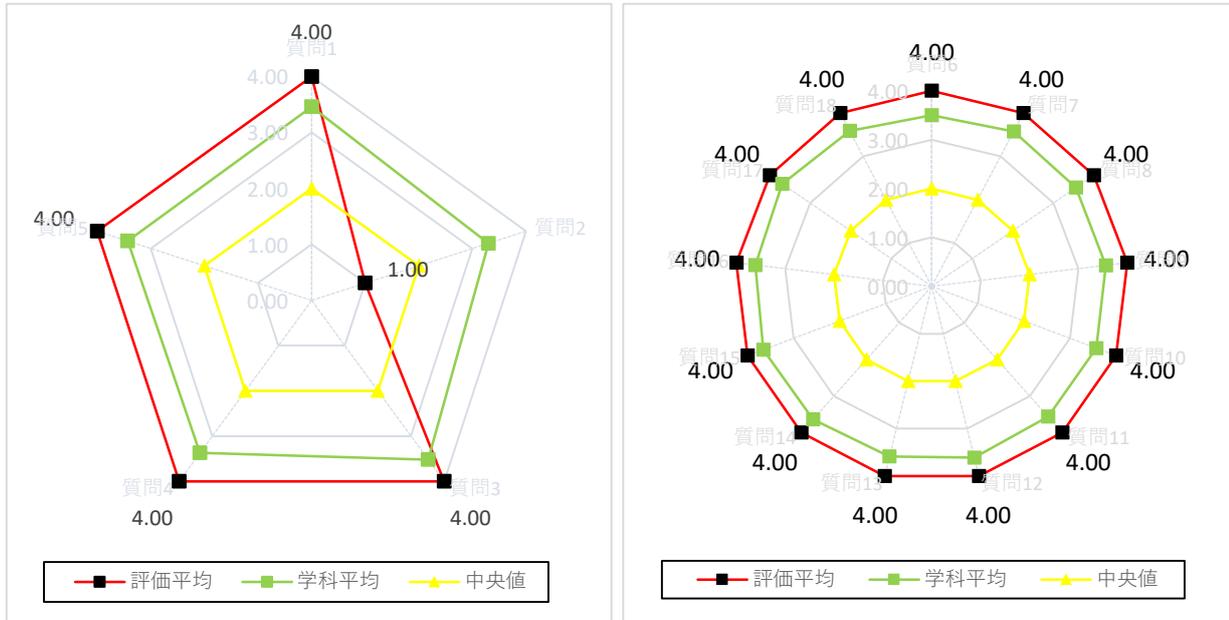
6名の回答 実習前の指導のため、欠席者には補講等を実施。学生の学びを深めることが出来たと捉えている。問8については、事務的な手つづきや調べ学習も多く、興味を持てるような工夫もしていたが、1名が2の評価をしている。全員が興味関心を持てるようにすることは難しいが、出来る限り近づけていきたいと考えている。

### (3) 次年度に向けての取り組み

回答率を100%にできるようにし、実習に向けての取り組みをさらに進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護実習Ⅳ	7名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

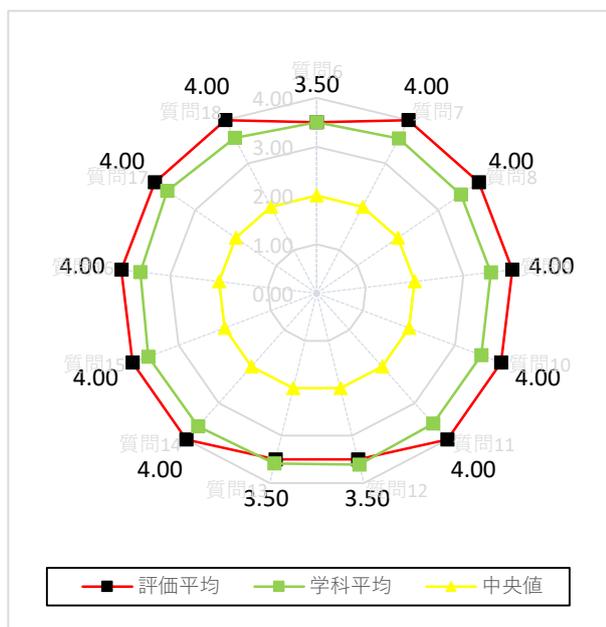
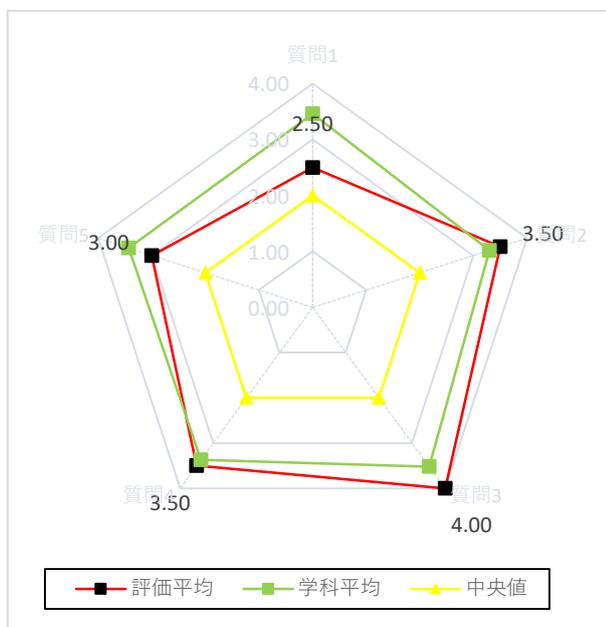
7名中1名の回答。実習の時期を考え、アンケートを実施できる日を設定する必要があると捉える。シラバスの説明をしているつもりであったが、理解が不足しているという事が理解できた。今後シラバスをしっかりと説明し、実習に望んでもらえるように考えていきたい。

### (3) 次年度に向けての取り組み

回答率を上げるために、アンケート実施日の設定を考えていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護実習Ⅱ	9名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

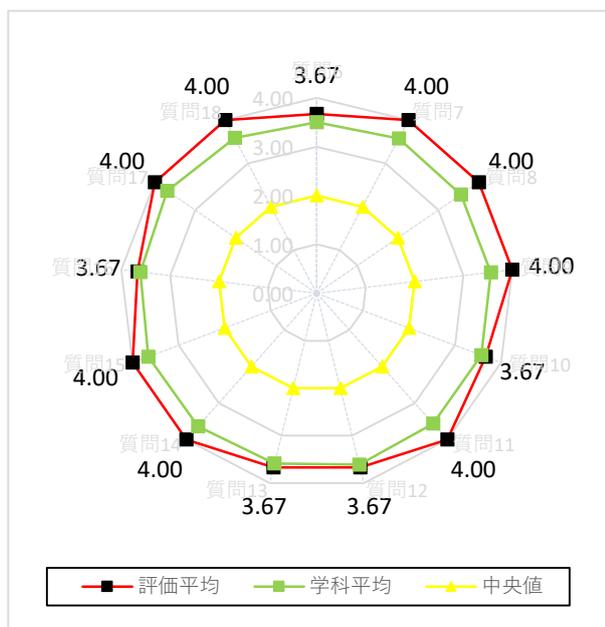
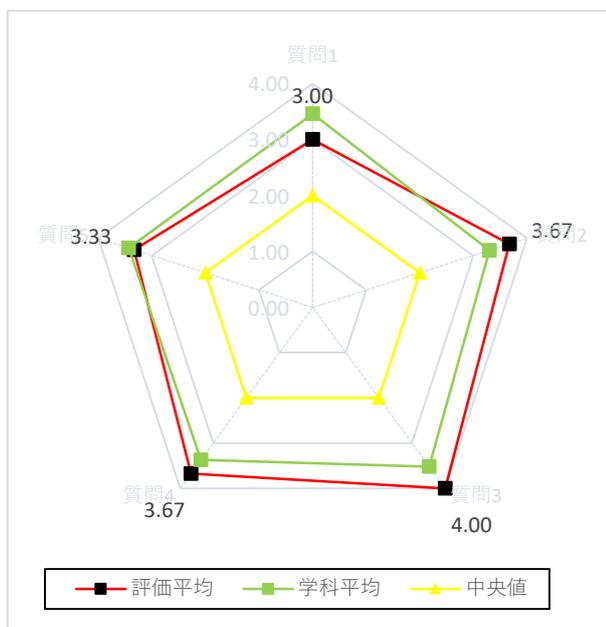
7名中2名の回答 まずは、回答率を上げることを第一とする。実習という教科上、質問1.12.13は答えづらい問題である。(全日出勤でなければならないため)  
 実習においては、巡回指導・大学での帰校日指導・演習・グループワークを重ねて常に意見を伺ってはいるが、客観的な評価を考える上では、必要であると捉えている。  
 今後、評価の更なる実施を心がけたい。

### (3) 次年度に向けての取り組み

回答率を上げるために、アンケート調査期間が実習終了後に行えるように、設定をし、確実に実施していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護実習Ⅲ	9名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

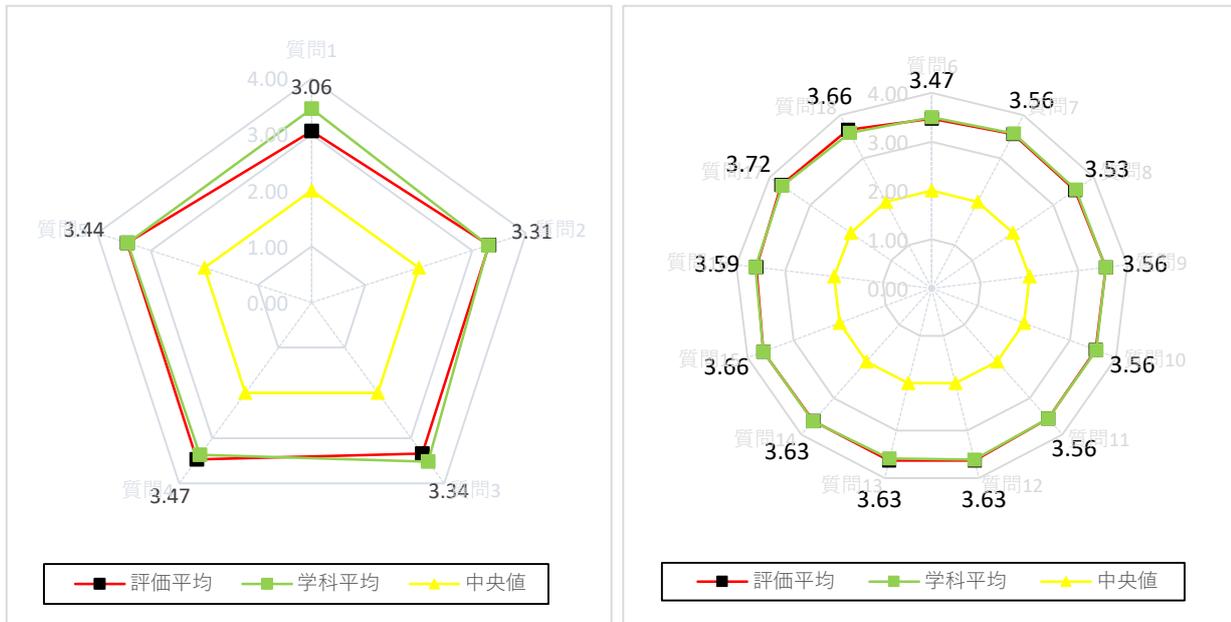
7名中3名の回答 全員の回答が行えるように日程設定および帰校日等で記載してもらいたい。  
 実習のため、欠席は0日となるはずだが、解答について理解してもらえるように説明をしていきたい。  
 質問5に関してが、自己評価が低く 実習の反省等でもう少しポジティブになれるように個別面談等を行っていききたい。  
 ともかく、回答率を上げる音から始めていきたい。

### (3) 次年度に向けての取り組み

実習について、授業評価に合うのかというと、悩ましいところもあるが、学生の振り返りが行える点では、必要な部分とらえ、評価時期についてを考えていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		社会福祉特講Ⅱ	44名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

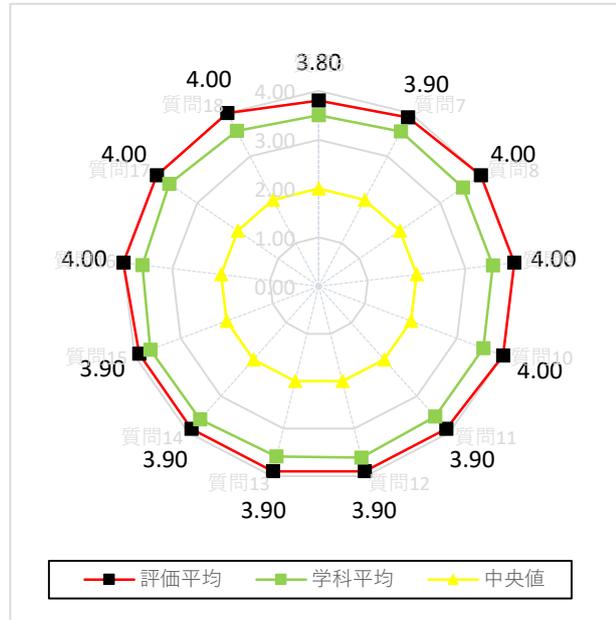
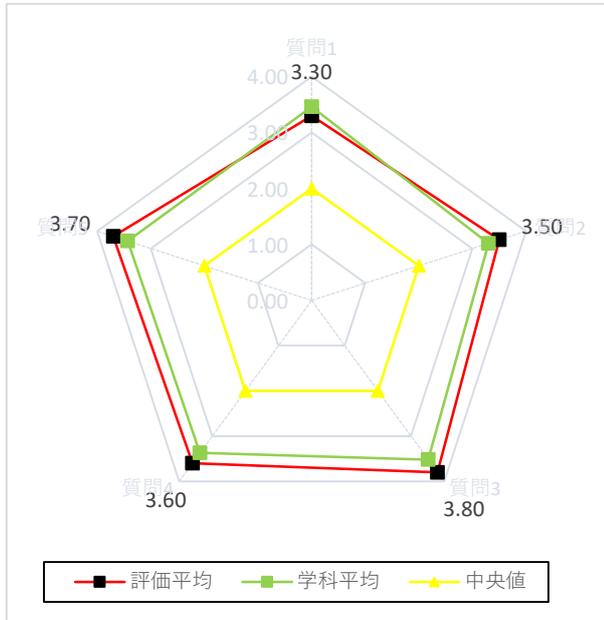
自身の担当分野についての過去問の動向解説を交えて実施した。また、過去の頻出箇所に特化して説明した。

### (3) 次年度に向けての取り組み

合格率のさらなる向上に向けて、傾向の把握を踏まえた授業を充実する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		医療的ケアⅡ	10名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

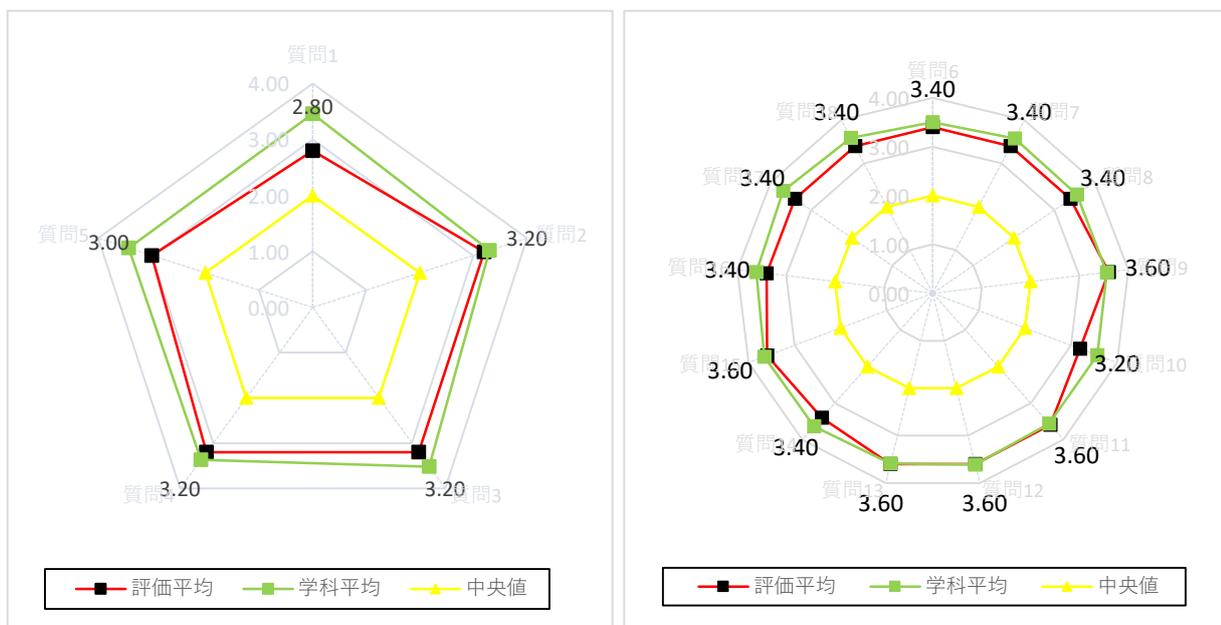
理解を深めるための教材（プリント）を活用し、質問には丁寧に答えるよう取り組んだ。

### (3) 次年度に向けての取り組み

習熟度が高まるよう、適切な視聴覚教材（DVD）を教材として組み込み活用する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		医療的ケア I	9名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

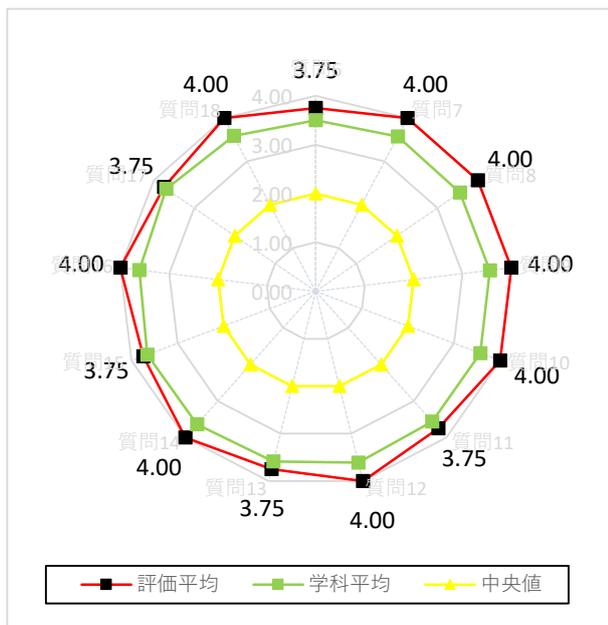
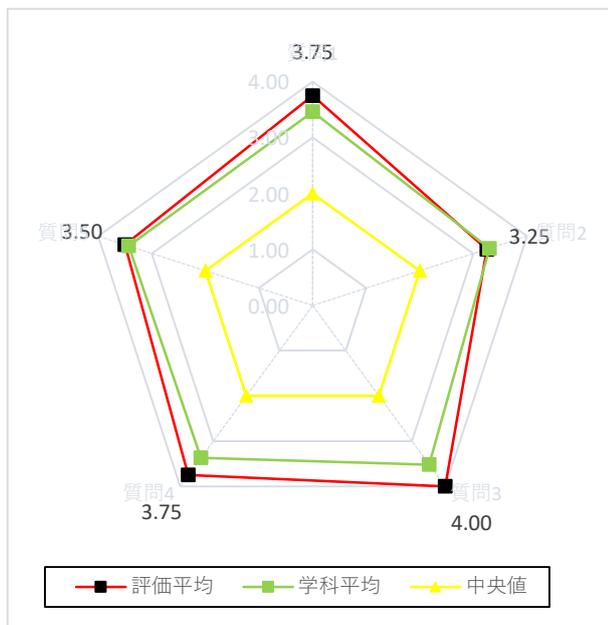
学科平均を下回る評価項目があるため、授業展開の方法を工夫する必要がある。視聴覚教材や板書の活用が少ないことが課題として残る。

### (3) 次年度に向けての取り組み

学びを深めるための教材（視聴覚教材・配布プリント）の工夫を行う。授業内での「双方向的なやり取り」も意識して増やす。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		医療的ケア演習	10名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

シラバスの説明が十分でなく、評価（質問2）が低い結果となった。

### (3) 次年度に向けての取り組み

集中演習であり、学生がシラバスを活用するということが難しい状況であるものの、意識づけができるための説明を丁寧に行う。